

8-4-2 植物

工事の実施（切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事並びに工事施工ヤード及び工事用道路の設置）又は鉄道施設（トンネル、地表式又は掘割式、嵩上式、駅、車両基地及び変電施設）の存在により、対象事業実施区域及びその周囲で重要な種、群落への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

(1) 調査

1) 調査すべき項目

ア. 高等植物に係る植物相及び植生の状況

調査項目は、高等植物に係る植物相及び植生の状況とした。

イ. 高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

ウ. 蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況

調査項目は、蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況とした。

2) 調査の基本的な手法

ア. 高等植物に係る植物相及び植生の状況

文献調査により、地域に生育する高等植物関連の文献、資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。

現地調査の方法を、表 8-4-2-1 に示す。

表 8-4-2-1 高等植物の調査方法

調査項目	調査方法	
高等植物に係る植物相	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、確認された種を記録した。調査の対象はシダ植物以上の高等植物とし、現地での同定が困難な種については標本を持ち帰り、室内で同定を行った。
高等植物に係る植生	植生分布調査	既存資料、空中写真判読を参考に現地を踏査し、植生や土地利用の状況によって植物群落を区分した相観植生図を作成した。
	コドラート法	植生や土地の利用の状況によって区分された植物群落について、方形枠（コドラート）を設定し、植生の状況を調査した。調査した植生はブランブランケ法により、その特徴の把握を行った。

イ. 高等植物に係る重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況

生育が確認された高等植物に係る種及び分布が確認された群落の内、表 8-4-2-2 に示す基準に該当するものを高等植物に係る重要な種及び群落として選定した。

なお、重要な種の選定にあたっては、必要に応じて専門家等の指導・助言を受け、選定した。

表 8-4-2-2(1) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
①	文化財保護法（昭和25年、法律第214号）	特天：特別天然記念物 天：天然記念物
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年、法律第75号）	国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
③	自然環境保全法（昭和47年、法律第85号）	○：指定の地域
④	神奈川県文化財保護条例（昭和30年、神奈川県条例第13号）	県：県指定天然記念物
⑤	相模原市文化財保護条例（昭和32年、相模原市条例第23号） 川崎市文化財保護条例（昭和34年、条例第24号） 横浜市文化財保護条例（昭和62年、条例第53号） 愛川町文化財保護条例（昭和35年、条例第1号）	市：市指定天然記念物 町：町指定天然記念物
⑥	神奈川県自然環境保全条例（昭和47年、神奈川県条例第52号）	○：自然環境保全地域
⑦	「環境省第4次レッドリスト 植物Ⅰ（維管束植物）及び植物Ⅱ（維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）」（平成24年、環境省）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+ EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑧	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅危惧ⅠA類 絶滅危惧ⅠB類 絶滅危惧Ⅱ類 準絶滅危惧 減少種 希少種 要注意種 注目種 情報不足 情報不足A 情報不足B 不明種 絶滅のおそれのある地域個体群

表 8-4-2-2(2) 高等植物に係る重要な種及び群落の選定基準

番号	文献及び法令名	区分
⑨	「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会)	1: 要注意 2: 破壊の危惧 3: 対策必要 4: 緊急に対策必要
⑩	「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—関東・中部(山岳)編—」(昭和57年、環境庁)	国定: 国定公園指定植物 県立: 県立公園指定植物
⑪	「第4回自然環境基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 関東版(Ⅱ)(埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都)」(平成3年、環境庁)	○: 指定されている巨木、巨樹
⑫	「第2回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版(埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都)」(昭和55年、環境庁) 「第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落Ⅱ 南関東版(埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都)」(昭和63年、環境庁) 「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)	○: 掲載されている特定植物群落
⑬	専門家等の助言により選定した種	○: 選定種
⑭	東京都(区部): 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト~ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)	EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、*: 留意種
⑮	東京都(南多摩): 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト~ 2010年版」(平成22年、東京都環境保全局自然保護部)	EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧Ⅰ類、CR: 絶滅危惧ⅠA類、EN: 絶滅危惧ⅠB類、VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、*: 留意種

注1. 選定基準⑩については相模原市緑区丘陵部の自然公園内で確認された場合のみ該当種とする。

注2. 選定基準⑭、⑮については調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

ウ. 蘚苔類及び地衣類に係る重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況

文献調査により、地域に生育する重要な蘚苔類及び地衣類関連の文献、資料を収集し整理した。なお、必要に応じて専門家へのヒアリングを行った。選定基準は表 8-4-2-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

現地調査の方法を、表 8-4-2-3 に示す。

表 8-4-2-3 蘚苔類及び地衣類の調査方法

調査項目	調査方法
蘚苔類及び地衣類	調査地域内を踏査し、目視により確認を行った。現地での同定が困難な場合は写真又は標本により同定を行った。

3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周辺の内、都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地下駅、車両基地及び変電施設を対象に工事の実施又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、地下駅、車両基地及び変電施設）の存在に係る植物への影響が生ずるおそれがあると認められる地域とした。

4) 調査地点

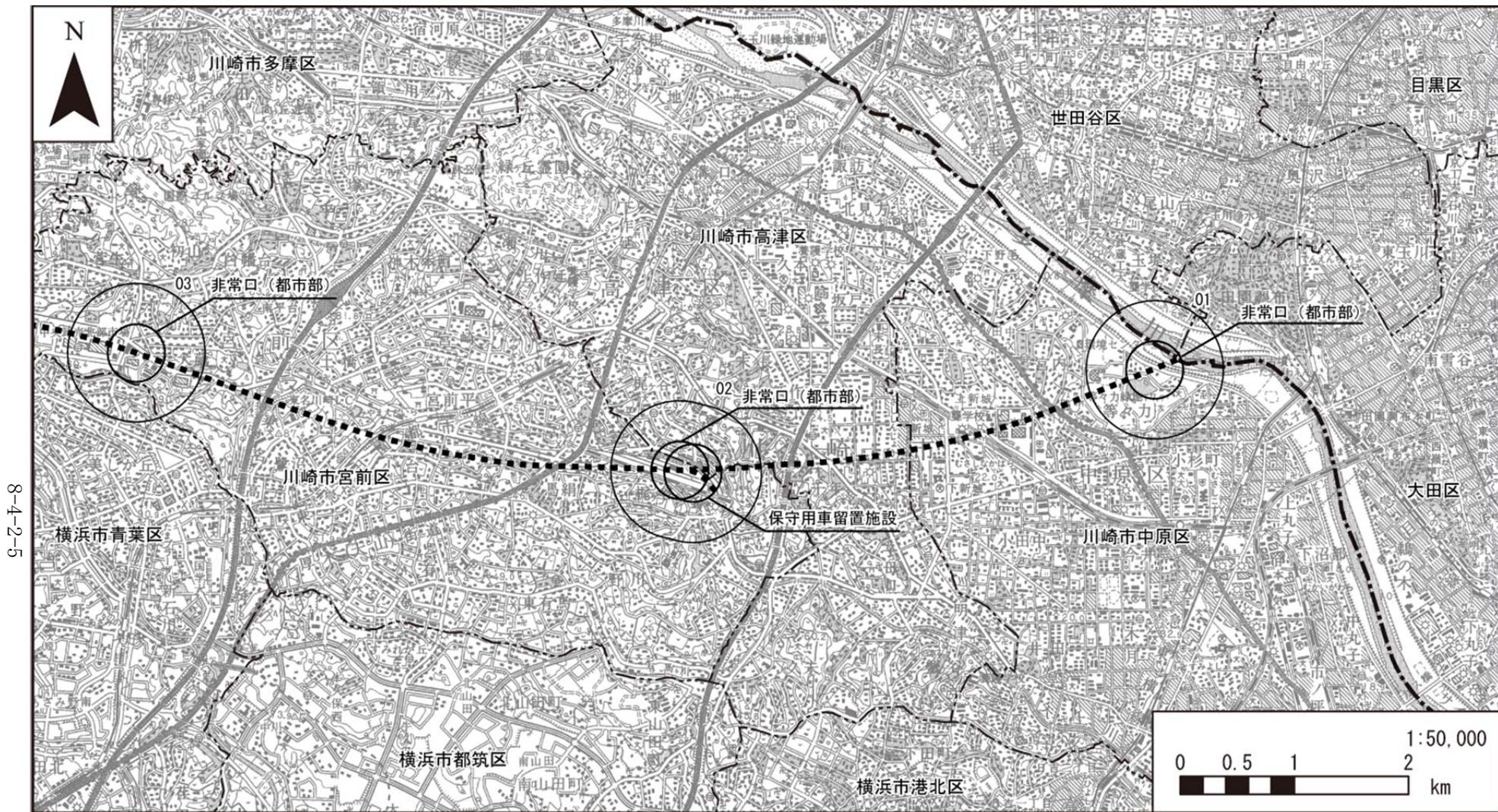
高等植物は、調査地域の内、周辺の地形等の条件を勘案して、その地域を代表する植物の生育環境を網羅できる範囲に設定した。調査範囲は土地改変区域から概ね 600m の範囲とした。調査範囲を、表 8-4-2-4 及び図 8-4-2-1 に示す。

蘚苔類及び地衣類は、調査地域の内、文献調査等に基づき設定した。調査範囲は土地改変区域から概ね 600m の範囲とした。

なお、橋本地区においては、橋本駅周辺の市街地が大部分を占め、自然環境がほとんど存在しないため、調査地域には含めないこととした。

表 8-4-2-4 調査範囲

地域番号	地域名称	対象施設
01	等々力地区	非常口（都市部）
02	梶ヶ谷地区	非常口（都市部）
03	犬蔵地区	非常口（都市部）
04	東百合丘地区	非常口（都市部）
05	片平能ヶ谷地区	非常口（都市部）
06	小倉地区	高架橋、橋梁、変電施設
07	長竹地区	非常口（山岳部）
08	青山地区	地表式又は掘割式、橋梁、非常口（山岳部）
09	鳥屋地区	車両基地
10	牧馬地区	非常口（山岳部）
11	大羽根地区	非常口（山岳部）

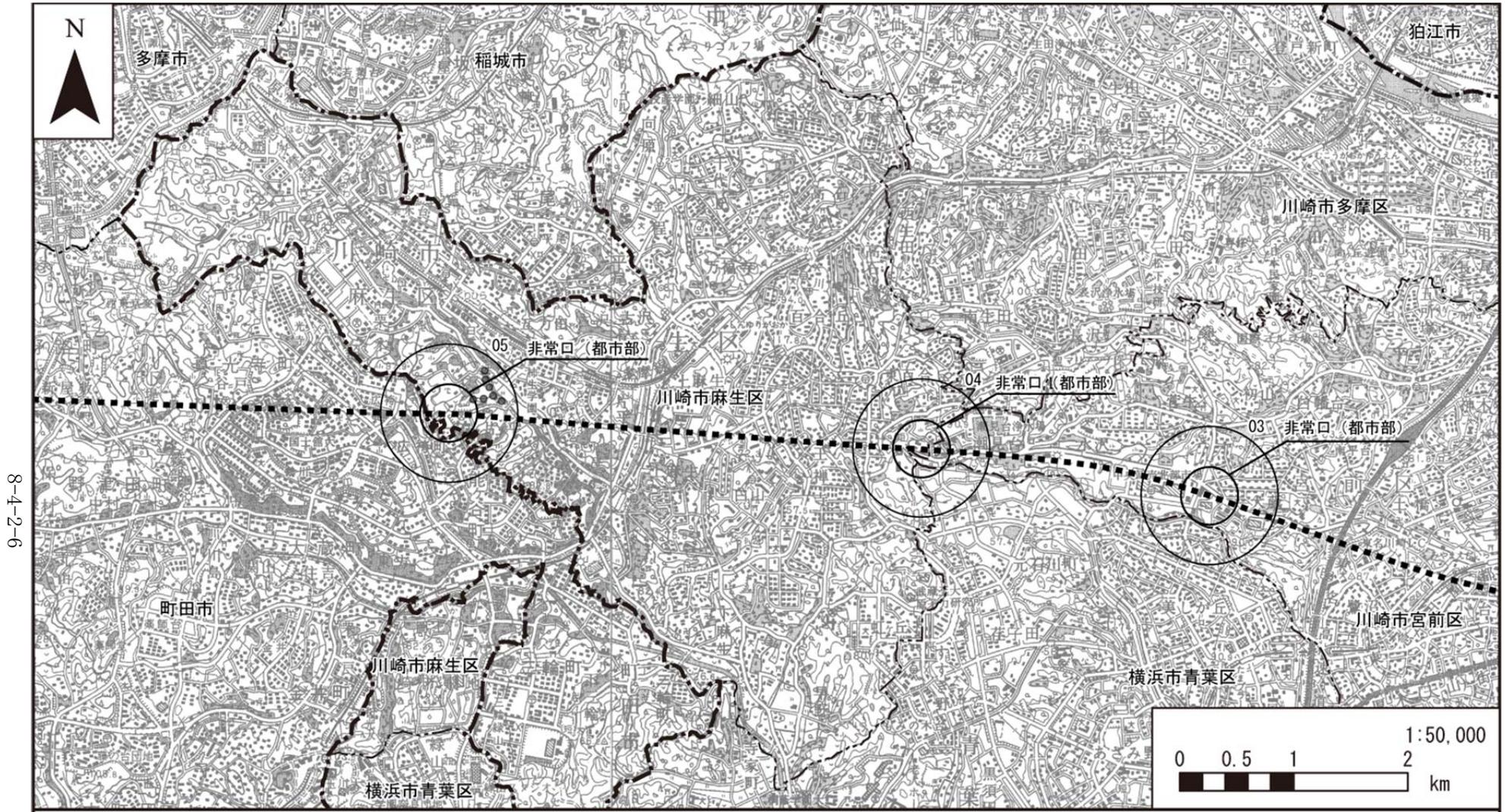


8-4-2-5

凡例

- 計画路線(トンネル部) □ 調査範囲
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

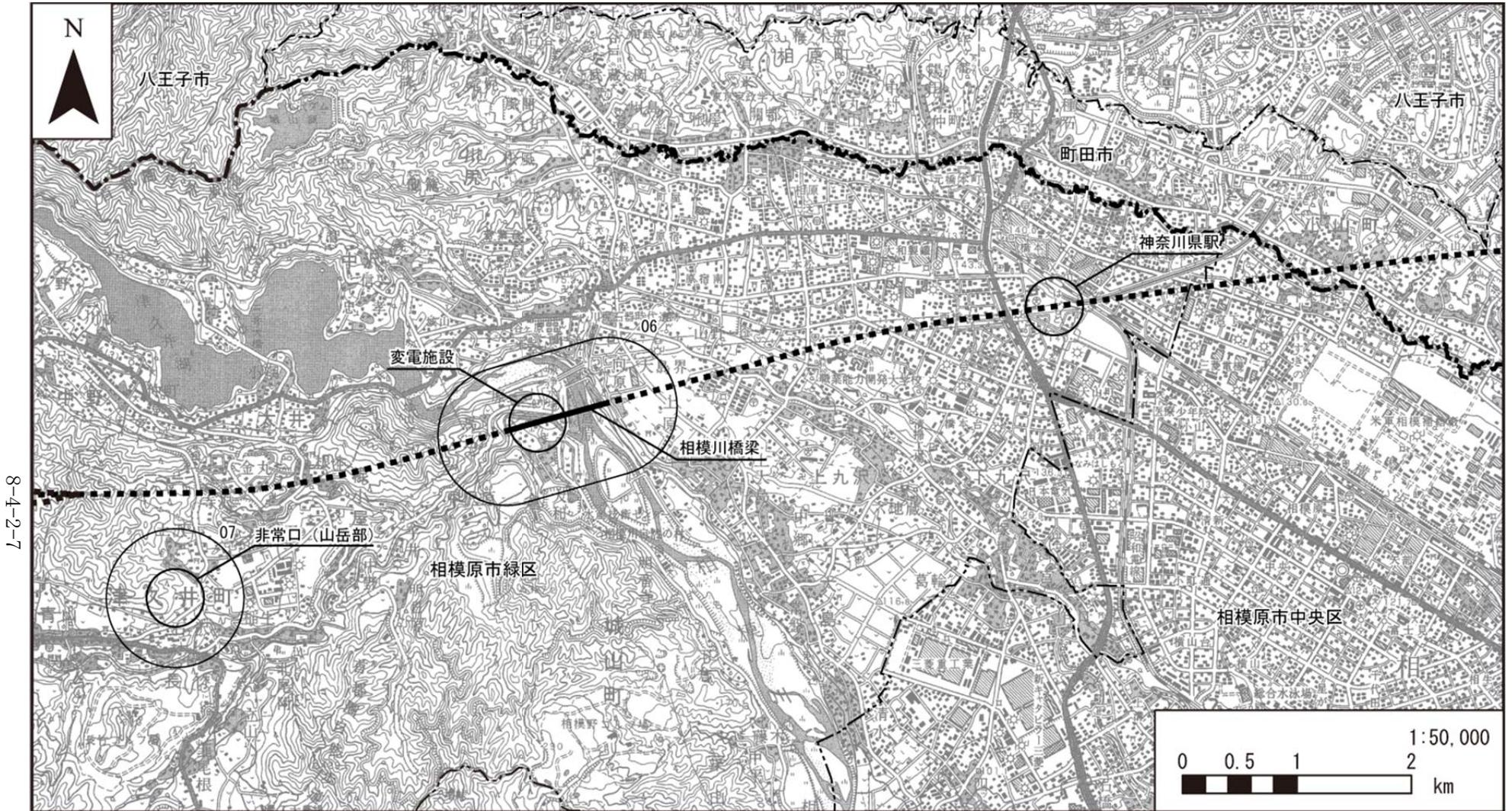
図8-4-2-1(1) 調査範囲図



- 凡例**
- 計画路線(トンネル部) □ 調査範囲
 - 計画路線(地上部)
 - 工事用道路
 - 都県境
 - 市区町村境



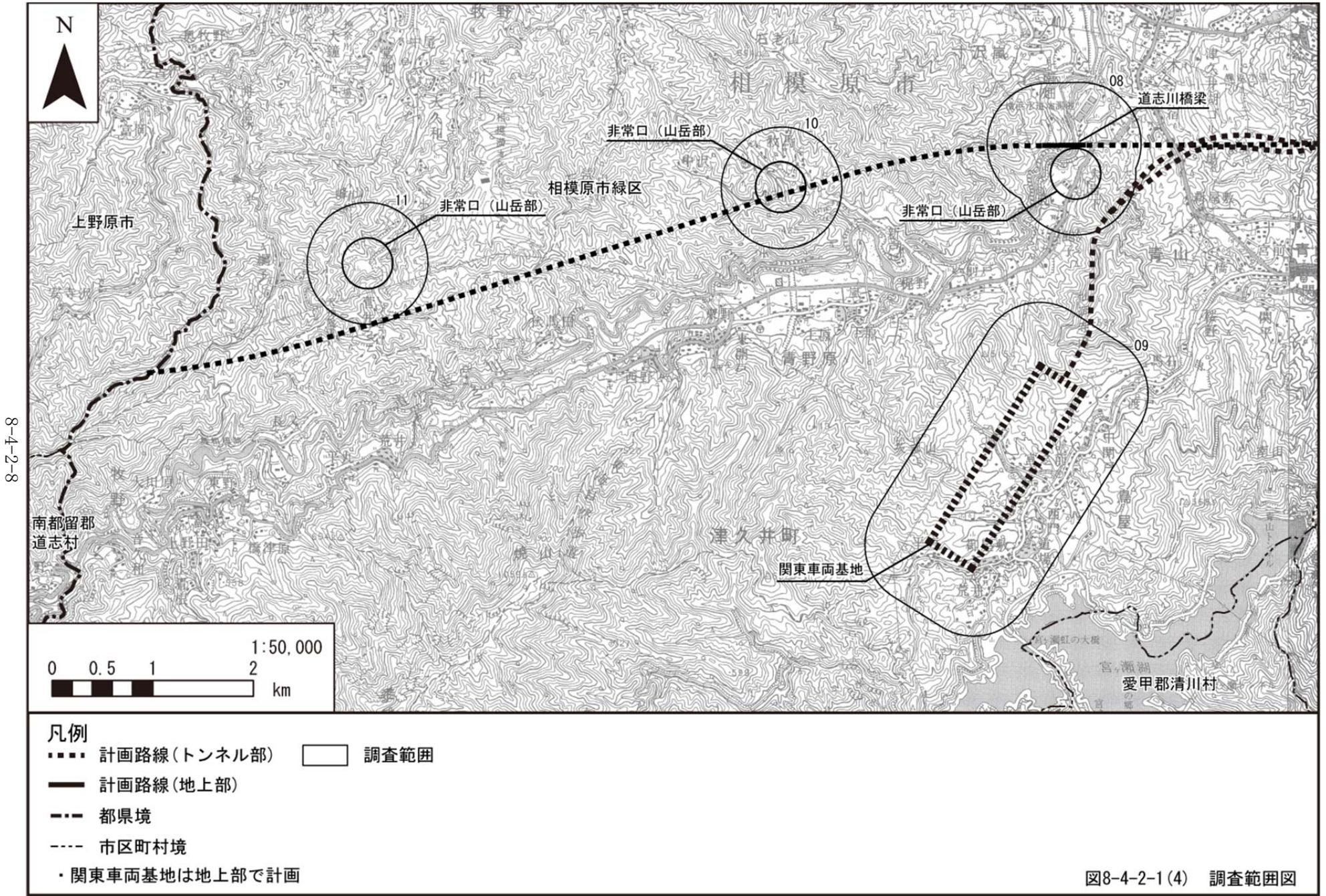
図8-4-2-1(2) 調査範囲図



凡例

- 調査範囲
- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図8-4-2-1(3) 調査範囲図



5) 調査期間等

現地調査は、表 8-4-2-5 に示す時期に実施した。

表 8-4-2-5 調査期間等

調査項目	調査実施日	
高等植物に係る植物相	早春季	平成24年4月9～13日、平成25年4月15日
	春季	平成24年5月14～18日、平成25年5月10日、20日、24日
	夏季	平成24年8月6～9日、平成25年7月12日
	秋季	平成24年10月15～19日
高等植物に係る植生	夏季	平成24年7月2～6日、平成25年7月12日
	秋季	平成24年10月29～31日、11月1日、2日
蘚苔類・地衣類		平成24年8月22日、23日、9月12日、13日、26日、平成24年10月6日、10日、27日、11月21日、22日、平成24年12月5日、6日、平成25年1月9日、10日

6) 調査結果

高等植物及び蘚苔類・地衣類について現地調査の結果を、以下に示す。なお、確認地点における改変の可能性のある範囲からの位置関係は、表 8-4-2-6 に基づいて整理した。

表 8-4-2-6 改変区域と確認位置の距離に関する定義

用語		定義
範囲内	改変の可能性のある範囲	計画施設及び工事施工ヤードが設置され、改変される可能性がある範囲
範囲外	改変の可能性のある範囲の近傍	改変の可能性のある範囲外でかつ、改変の可能性のある範囲の周辺100m未満
	相当離れた地域	改変の可能性のある範囲外でかつ、改変の可能性のある範囲の周辺100m以上

改変の可能性のある範囲として、「第3章 表 3-4-2-1」に示す範囲を設定した。なお、非常口（都市部、山岳部）は、「環境影響評価関連図」に示した円の中心から半径100mの範囲を、トンネル坑口は「環境影響評価関連図」に示した中心から半径100mの範囲を、変電施設は「環境影響評価関連図」に示した円の中心から半径150mの範囲を設定した。

ア. 高等植物に係る植物相

7) 高等植物に係る植物相の状況

現地調査において、159科1326種類の高等植物が確認された(「資料編 20-1 植物出現種リスト」参照)。現地調査の結果を、表 8-4-2-7 に示す。

表 8-4-2-7 高等植物に係る植物相の現地調査結果

分類		調査時期								合計			
		早春季		春季		夏季		秋季					
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数		
シダ植物		16	85	19	110	17	104	18	103	20	133		
種子植物	裸子植物		5	10	5	8	7	12	6	9	7	13	
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	57	313	69	448	72	451	74	447	80	566
			合弁花類	27	140	29	232	29	243	30	241	33	307
	単子葉植物		14	111	13	186	18	206	19	213	19	307	
合計		119	659	135	984	143	1016	147	1013	159	1326		

注1. 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録1987」(昭和62年、環境庁)に準拠した。

注2. 各季節において重複して確認されている種が含まれていることから、科数及び種数の合計は季節毎の確認数の合計と一致しない。

調査地域の主な生育環境は、雑木林、植林等の樹林、草地、水辺、耕作地、市街地が挙げられる。現地調査の結果概要を、表 8-4-2-8 に示す。

表 8-4-2-8 高等植物に係る植物相現地調査結果の概要

主な生育環境	主な確認種
樹林	リョウメンシダ、ベニシダ、ミゾシダ、スギ、ヒノキ、クヌギ、アラカシ、シラカシ、コナラ、ムクノキ、エノキ、ケヤキ、アブラチャン、ヒサカキ、フジ等
草地	イヌワラビ、スイバ、メドハギ、クズ、シロツメクサ、メマツヨイグサ、オヤブジラミ、ヤエムグラ、オオブタクサ、ヨモギ、コセンダングサ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ等
水辺	タチヤナギ、ヤナギタデ、オオイヌタデ、ミゾソバ、オランダガラシ、セリ、オオカワヂシャ、カワヂシャ、アメリカセンダングサ、コブナグサ等
耕作地	スギナ、ザクロソウ、スベリヒユ、コハコベ、シロザ、ナズナ、タネツケバナ、コニシキソウ、セリ、ホトケノザ等
市街地	ナガバギシギシ、イヌコハコベ、ミチタネツケバナ、マメグンバイナズナ、オッタチカタバミ、タチイヌノフグリ、オオバコ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、オニノゲシ等

イ) 高等植物に係る重要な種の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な種は92科328種類であった(「資料編 20-1 植物出現種リスト」及び「資料編 20-2 植物文献調査確認種リスト」参照)。文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な種とその選定基準を、表 8-4-2-9 に示す。

表 8-4-2-9(1) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
1	マツバラシ	マツバラシ	○							NT	絶滅危惧Ⅱ類			
2	ヒカゲノカズラ	スギラン	○							VU	絶滅危惧Ⅱ類			VU
3	イワヒバ	イヌカタヒバ	○							VU				
4	ミズニラ	ミズニラ	○	○						NT	絶滅危惧ⅠB類		DD	VU
5	ハナヤスリ	コヒロハハナヤスリ	○								準絶滅危惧		VU	VU
6	キジノオシダ	キジノオシダ	○								準絶滅危惧			VU
7	ウラジロ	コシダ		○										NT
8	コケシノブ	ヒメコケシノブ	○								絶滅危惧Ⅱ類			
9		コケシノブ	○								準絶滅危惧			
10	ホングウシダ	ハマホラシノブ	○								絶滅危惧ⅠB類			
11	シノブ	シノブ		○								※3		VU
12	ミズワラビ	ミズワラビ	○								準絶滅危惧		EW	
13		ヒメウラジロ	○							VU	絶滅危惧ⅠB類		DD	VU
14		カラクサシダ	○								絶滅危惧Ⅱ類			VU
15	チャセンシダ	コタニワタリ	○								絶滅危惧ⅠA類		CR	CR

表 8-4-2-9(2) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
16	チャセンシダ	チャセンシダ	○								絶滅危惧 I A 類			
17		イヌチャセンシダ	○								絶滅危惧 I B 類			
18		ヤマドリトラノオ	○						CR		絶滅危惧 I A 類			
19	オシダ	シノブカグマ	○								絶滅危惧 I A 類			EN
20		イヌイワイタチシダ	○								絶滅危惧 I B 類			
21		タニヘゴ	○								絶滅危惧 I A 類		EX	
22		ナライシダ		○									EN	VU
23		オニイノデ	○	○					VU					VU
24	ヒメシダ	メニッコウシダ	○								絶滅危惧 I B 類			
25	メシダ	ムクゲシケンシダ	○								絶滅危惧 II 類			
26		ミドリワラビ	○								絶滅危惧 I B 類			VU
27	デンジソウ	デンジソウ	○						VU		絶滅危惧 II 類		CR	
28	サンショウモ	サンショウモ	○						VU		絶滅危惧 I A 類		DD	DD
29	アカウキクサ	オオアカウキクサ	○						EN		絶滅危惧 II 類		DD	DD
30	マツ	ハリモミ	○								絶滅危惧 II 類			EX
31		ヒメコマツ	○								絶滅危惧 I A 類			
32	ヒノキ	ネズ	○								絶滅危惧 I A 類			CR
33	ヤナギ	ジャヤナギ		○									NT	
34		オノエヤナギ		○									NT	VU
35	カバノキ	タニガワハンノキ	○								絶滅危惧 I B 類			
36	ブナ	ウバメガシ	○								絶滅危惧 I A 類			
37	イラクサ	トキホコリ	○						VU		絶滅危惧 I B 類		EX	CR
38		ミヤマイラクサ	○								絶滅危惧 I A 類			
39	ヤドリギ	マツグミ	○								絶滅危惧 I B 類			VU
40	タデ	オオツルイタドリ	○								絶滅危惧 I A 類			
41		ナガバナヤノネグサ	○								絶滅危惧 I A 類			VU
42		ホソバイヌタデ	○						NT		絶滅		CR	
43		ヌカボタデ	○						VU		絶滅		VU	VU
44		ノダイオウ	○						VU					
45		マダイオウ	○								絶滅			
46		コギシギシ	○						VU					

表 8-4-2-9(3) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
47	ナデシコ	タチハコベ	○							VU				
48		ワダソウ	○								絶滅危惧 I B類		EX CR	
49	アカザ	カワラアカザ	○								絶滅危惧 I A類			
50	ヒユ	ヤナギイノコ ズチ	○	○							準絶滅危 惧		VU VU	
51	クスノキ	ニッケイ	○							NT				
52	キンポウゲ	アズマレイジ ンソウ	○								絶滅危惧 I A類		VU	
53		ミチノクフク ジュソウ	○							NT				
54		フクジュソウ	○	○								絶滅危惧 II類		CR
55		ミスミソウ	○							NT				EX
56		スハマソウ	○									絶滅危惧 I B類		
57		アズマイチゲ	○	○								準絶滅危 惧		EX VU
58		カザグルマ	○							NT		絶滅危惧 I B類		EX CR
59		バイカオウレ ン	○									絶滅危惧 I B類		
60		オキナグサ	○	○							VU	絶滅危惧 I A類		EX EW
61		オトコゼリ	○									絶滅		
62		シギンカラマ ツ	○	○								絶滅危惧 I B類		EX CR
63		ヒメミヤマカ ラマツ	○								NT			
64		イワカラマツ	○								VU	絶滅危惧 I A類		
65		メギ	ルイヨウボタ ン	○	○							絶滅		VU
66	イカリソウ			○									EN VU	
67	スイレン	ジュンサイ	○								絶滅		EX EX	
68		オニバス	○							VU			CR	
69		コウホネ	○									絶滅危惧 I A類		VU VU
70		ヒメコウホネ	○							VU		絶滅		CR
71		ヒツジグサ	○									絶滅		CR EW
72	マツモ	マツモ	○								絶滅危惧 I B類		EX EX	
73	ウマノスズ クサ	ウスバサイシ ン	○								絶滅危惧 II類			
74		カンアオイ		○										
75		タマノカンア オイ	○	○							VU	絶滅危惧 II類		DD VU

表 8-4-2-9(4) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準											
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮			
76	ボタン	ヤマシャクヤク	○							NT						CR
77		ベニバナヤマシャクヤク	○							VU	絶滅危惧 I A類					CR
78	オトギリソウ	トモエソウ		○									EX		VU	
79		コオトギリ	○							NT						
80		アゼオトギリ	○							EN	絶滅		CR		EX	
81	モウセンゴケ	イシモチソウ	○							NT	絶滅					
82		モウセンゴケ	○								絶滅危惧 I B類		EX		EX	
83	ケシ	ヤマブキソウ	○	○							絶滅危惧 II類		CR		VU	
84	アブラナ	コンロンソウ	○								絶滅危惧 I A類				CR	
85		コイヌガラシ	○	○						NT						
86	マンサク	トサミズキ	○							NT						
87	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ	○								絶滅危惧 II類					
88		イワレンゲ		○						VU	絶滅					
89		ツメレンゲ	○							NT	絶滅危惧 I A類					
90		マツノハマネングサ	○							VU						
91		メノマンネングサ	○								絶滅危惧 I A類					
92		アズマツメクサ	○	○						NT	絶滅危惧 I A類		EX		EN	
93	ユキノシタ	チダケサシ		○									EN		NT	
94		トリアシショウマ	○								絶滅危惧 I A類					
95		ムカゴネコノメ	○	○						NT						
96		ウメバチソウ	○								絶滅危惧 I B類				EN	
97		タコノアシ	○	○						NT			NT		NT	
98	バラ	チョウセンキンミズヒキ	○							VU	絶滅危惧 I B類				EN	
99		ザイフリボク	○								絶滅危惧 I A類				EX	
100		ヒロハノカワラサイコ	○							VU	絶滅危惧 I B類				VU	
101		ヤブザクラ	○							EN	絶滅危惧 II類				VU	
102	マメ	タヌキマメ	○								絶滅					
103		イタチササゲ	○								絶滅危惧 I B類					
104		レンリソウ	○								絶滅危惧 I B類		EX		VU	
105		イヌハギ	○							VU	絶滅危惧 I B類		VU		VU	
106		ヨツバハギ	○								絶滅危惧 I A類				VU	

表 8-4-2-9(5) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
107	フウロソウ	タチフウロ	○								絶滅危惧 I B類		EX	EN
108		ミツバフウロ	○								絶滅危惧 I B類			
109	トウダイグサ	ノウルシ	○						NT		絶滅		EX	
110	クロウメモドキ	ヨコグラノキ	○								絶滅危惧 I B類			
111		クロツバラ	○								絶滅危惧 I A類		EX	CR
112	グミ	ハコネグミ	○						VU		絶滅危惧 II類			
113	スマレ	エゾノタチツボスミレ	○								絶滅危惧 I A類			
114		ナガバノスミレサイシン		○								※ 3		
115		マルバケスミレ	○								絶滅危惧 I B類			CR
116		サクラスミレ	○								絶滅危惧 I B類			CR
117		マキノスミレ	○								絶滅危惧 I A類			CR
118		タチスミレ	○							VU			EX	
119		ゲンジスミレ	○								絶滅危惧 I A類			CR
120	ウリ	ゴキヅル	○							絶滅危惧 I B類		VU	CR	
121	ミソハギ	ミズマツバ	○						VU	絶滅危惧 II類		CR	CR	
122	ヒシ	ヒシ	○							絶滅危惧 I A類		CR		
123	アカバナ	ウシタキシソウ	○	○							絶滅危惧 I B類			
124		ヒメアカバナ	○								絶滅危惧 I B類			
125		ウスゲチョウジタデ	○						NT					
126	アリノトウグサ	フサモ	○								絶滅		EX	
127	セリ	ハナビゼリ	○								絶滅危惧 I A類		EX	CR
128		ホタルサイコ	○								絶滅危惧 I A類			VU
129		ミシマサイコ	○						VU		絶滅危惧 I A類			EX
130		イブキボウフウ	○								絶滅危惧 I B類			
131		ムカゴニンジン	○								絶滅危惧 I A類		EX	CR
132		ヒカゲミツバ	○								絶滅危惧 I B類			
133	イチヤクソウ	シャクジョウソウ	○	○							絶滅危惧 I A類			VU

表 8-4-2-9(6) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
134	ツツジ	ベニドウダン	○								絶滅危惧 I B類			
135		サツキ	○	○							絶滅危惧 I B類			
136		レンゲツツジ	○								絶滅			EN
137		コバノミツバツツジ	○								絶滅危惧 I A類			
138		オオヤマツツジ	○								絶滅			
139		ナツハゼ	○	○							絶滅危惧 II類			
140	ヤブコウジ	オオツルコウジ	○						EN					
141	サクラソウ	ノジトラノオ	○						VU	絶滅危惧 I A類		EW	VU	
142		クリンソウ	○							絶滅危惧 I A類				
143		サクラソウ	○						NT			EX		
144	リンドウ	リンドウ		○							※ 2			
145		イヌセンブリ	○						VU	絶滅危惧 I B類		EX		
146		ムラサキセンブリ	○						NT	絶滅危惧 I A類			CR	
147	ミツガシワ	アサザ	○						NT	絶滅		VU		
148	ガガイモ	フナバラソウ	○						VU	絶滅危惧 I A類			EN	
149		スズサイコ	○						NT	絶滅危惧 I B類		EX	EN	
150	アカネ	オオバノヨツバムグラ	○							絶滅				
151		ヤブムグラ	○						VU	絶滅危惧 II類		EX	VU	
152		ホソバノヨツバムグラ	○							絶滅危惧 II類		EX	CR	
153		イナモリソウ	○							絶滅危惧 I B類			VU	
154	ヒルガオ	マメダオシ	○						CR			EX	EX	
155	ムラサキ	ムラサキ	○						EN	絶滅危惧 I A類		EX	CR	
156		ルリソウ	○							絶滅危惧 I A類		EX	DD	
157		ミズタビラコ	○							絶滅危惧 I B類				
158	クマツヅラ	カリガネソウ	○							絶滅危惧 I A類		EW	CR	
159	シソ	タチキランソウ	○	○					NT					
160		ツルカコソウ	○						VU	絶滅危惧 I A類		EX		
161		タニジャコウソウ	○						NT				CR	
162		ミヤマトウバナ	○							情報不足				

表 8-4-2-9(7) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準										
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮		
163	シソ	キセワタ	○							VU	絶滅危惧 I B類		EX	EN	
164		シロネ	○								絶滅		VU	VU	
165		ヒメハッカ	○							NT	絶滅		EX		
166		ミゾコウジュ	○	○						NT			NT	NT	
167		ヒメナミキ	○									絶滅危惧 II類		EX	EX
168	ナス	アオホオズキ	○							VU					
169		ヤマホオズキ	○	○						EN	絶滅危惧 II類			CR	
170	ゴマノハグサ	ゴマクサ	○							VU	絶滅			CR	
171		サワトウガラシ	○								絶滅				
172		オオアブノメ	○							VU			EX	CR	
173	ゴマノハグサ	シソクサ	○								絶滅危惧 I B類		EX		
174		ヒメトラノオ	○								絶滅危惧 II類		EX	VU	
175		ゴマノハグサ	○							VU	絶滅危惧 I A類		EX	CR	
176		サツキヒナノ ウスツボ	○								絶滅危惧 I A類		EX	CR	
177		オオヒキヨモ ギ	○							VU				CR	
178		イヌノフグリ	○							VU	絶滅危惧 I B類		EN	VU	
179		カワヂシャ	○	○						NT					
180		クガイソウ	○									絶滅危惧 I A類			
181		タヌキモ	タヌキモ	○							NT	絶滅危惧 I A類			
182	イヌタヌキモ		○							NT	絶滅危惧 I A類		DD	VU	
183	オミナエシ	カノコソウ	○								絶滅				
184	マツムシソウ	ナベナ	○								絶滅危惧 II類		EX	VU	
185		マツムシソウ	○								絶滅危惧 I B類			EN	
186	キキョウ	フクシマシャ ジン	○								絶滅危惧 I A類			VU	
187		マルバノニン ジン	○							CR					
188		バアソブ	○							VU	絶滅危惧 I A類		EX	EN	
189		キキョウ	○							VU	絶滅危惧 I A類		EX	CR	
190		ノコギリソウ	○								絶滅危惧 I B類		EX	CR	
191		ヒメシオン	○								絶滅危惧 I A類		EX	VU	
192		カワラノギク	○							VU	絶滅危惧 I A類		EX	CR	

表 8-4-2-9(8) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
193	キク	サワシロギク	○								絶滅危惧 Ⅱ類		EX	EX
194		ウラギク	○						NT	絶滅危惧 Ⅱ類		EN		
195		カニコウモリ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
196		オオガンクビ ソウ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
197		アワコガネギ ク	○	○						NT			EX	VU
198		クサヤツデ	○								絶滅			
199		フジバカマ	○							NT	絶滅		DD	CR
200		アキノハハコ グサ	○							EN	絶滅危惧 ⅠA類		EX	CR
201		ヤナギタンポ ポ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
202		ノニガナ	○								絶滅			
203		カワラニガナ	○							NT	絶滅危惧 ⅠB類			
204		メタカラコウ	○								絶滅危惧 ⅠB類			
205		ミヤコアザミ	○								絶滅危惧 Ⅱ類		EX	CR
206		ヒメヒゴタイ	○							VU	絶滅危惧 ⅠA類		EX	CR
207		タカオヒゴタ イ	○	○							絶滅危惧 Ⅱ類			VU
208		セイタカトウ ヒレン	○								絶滅危惧 ⅠA類			CR
209		キクアザミ	○								絶滅危惧 ⅠB類			VU
210		コウリンカ	○							VU	絶滅危惧 ⅠA類			EX
211		サワオグルマ	○								絶滅危惧 ⅠA類		EX	
212		オナモミ	○							VU	絶滅危惧 ⅠB類		EX	DD
213		オモダカ	トウゴクヘラ オモダカ	○						VU	絶滅危惧 ⅠA類		DD	VU
214			アギナシ	○						NT	絶滅		CR	CR
215	トチカガミ	ヤナギスブタ	○							絶滅危惧 ⅠA類		EX	EN	
216		クロモ	○							絶滅危惧 ⅠB類		NT	VU	
217		トチカガミ	○						NT	絶滅		EX		
218		ミズオオバコ	○						VU	絶滅危惧 ⅠB類		VU	VU	
219		セキシヨウモ	○							絶滅危惧 ⅠB類		EX	EN	
220		コウガイモ	○								絶滅危惧 ⅠA類		CR	VU

表 8-4-2-9(9) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
221	ヒルムシロ	ササバモ	○								絶滅危惧 Ⅱ類		NT	NT
222		ホソバミズヒ キモ	○								絶滅危惧 ⅠB類			
223		イトモ	○						NT		絶滅危惧 Ⅱ類		VU	VU
224	イバラモ	ホッサモ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
225		サガミトリゲ モ	○						VU		絶滅危惧 Ⅱ類			
226		イトトリゲモ	○						NT		絶滅危惧 Ⅱ類			VU
227	ユリ	ソクシンラン	○								絶滅危惧 ⅠA類			
228		ヒメニラ	○								絶滅危惧 ⅠB類		EX	VU
229		キジカクシ	○								絶滅危惧 ⅠB類			VU
230		カタクリ	○	○							絶滅危惧 ⅠB類		VU	VU
231		キバナノアマ ナ	○								絶滅			EN
232		ヤマユリ		○								※ 2		
233		クルマバツク バネソウ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
234		アマドコロ		○									VU	NT
235		アマナ	○	○							絶滅危惧 Ⅱ類		VU	NT
236		ヒガンバナ	キツネノカミ ソリ		○									VU
237	オオキツネノ カミソリ		○								絶滅危惧 ⅠA類			VU
238	ヤマノイモ	ニガカシュウ		○									EX	NT
239	ミズアオイ	ミズアオイ	○						NT		絶滅		CR	EX
240	アヤメ	ノハナショウ ブ	○								絶滅危惧 ⅠB類		CR	VU
241		カキツバタ	○						NT		絶滅		EN	CR
242		アヤメ	○								絶滅		EX	EN
243	ヒナノシャ クジョウ	ヒナノシャク ジョウ	○								絶滅			
244	イグサ	オカズメノ ヒエ	○								絶滅危惧 ⅠA類			
245	ホシクサ	イトイヌノヒ ゲ	○								絶滅危惧 ⅠB類		EX	EN
246		ニッポンイヌ ノヒゲ	○								絶滅		EX	EN
247		イヌノヒゲ	○								絶滅危惧 ⅠB類			
248	イネ	ミズタカモジ グサ	○	○					VU					VU
249		セトガヤ		○									NT	NT

表 8-4-2-9(10) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
250	イネ	コウヤザサ	○								絶滅危惧 I A類			
251		ウンヌケモド キ	○							NT				
252		ヒメウキガヤ	○								絶滅危惧 I B類			
253		ハイチゴザサ	○								絶滅危惧 II類			VU
254		ミノボロ	○								絶滅危惧 I B類		VU	NT
255		ミチンバ	○								絶滅危惧 I B類			
256		キダチノネズ ミガヤ	○								絶滅危惧 I B類		VU	NT
257		アイアシ	○								絶滅危惧 II類		VU	
258		セイタカヨシ	○								絶滅危惧 I B類		DD	
259		タチイチゴツ ナギ	○							EN				
260		カガミナンプ スズ	○								絶滅危惧 II類			
261		マキヤマザサ	○								準絶滅危 惧			
262		ミカワザサ	○								絶滅危惧 II類			
263		カシダザサ	○								絶滅危惧 II類			
264		タキザワザサ	○								絶滅危惧 II類			
265		イブキザサ	○								絶滅危惧 I B類			
266		ケバノカシダ ザサ	○								準絶滅危 惧			
267		ケスエコザサ	○								絶滅危惧 II類			
268		ミヤギザサ	○								準絶滅危 惧			
269	サトイモ	ショウブ		○								VU	NT	
270	ミクリ	ミクリ	○						NT	絶滅危惧 II類		NT	NT	
271		タマミクリ	○						NT					
272		ナガエミクリ	○						NT	絶滅危惧 I B類		NT	NT	
273		ヒメミクリ	○						VU	絶滅危惧 I B類		DD	DD	
274	カヤツリ グサ	トダスゲ	○						CR			VU		
275		マツバスゲ	○							絶滅危惧 I B類		EX	NT	
276		ジョウロウス ゲ	○						VU	絶滅危惧 I A類				
277		コハリスゲ	○							絶滅危惧 I A類				

表 8-4-2-9(11) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準										
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮		
278	カヤツリグサ	ウマスゲ	○								絶滅		EX		
279		ヤガミスゲ	○								絶滅危惧 I B類		NT	VU	
280		タチスゲ	○								絶滅			EX	
281		シオクグ	○								準絶滅危 惧		VU		
282		コップモエギ スゲ	○								絶滅危惧 I A類				
283		オニナルコス ゲ	○								絶滅		EX		
284		カンエンガヤ ツリ	○	○						VU	絶滅危惧 I B類		NT	NT	
285		マメクグ	○								絶滅危惧 I A類				
286		シロガヤツリ	○								絶滅危惧 I B類		VU		
287		オニガヤツリ	○								絶滅				
288		ミズハナビ	○								絶滅危惧 I A類			EX	
289		スジヌマハリ イ	○							VU	絶滅				
290		コアゼテンツ キ	○								絶滅危惧 I A類				
291		コマツカサス スキ	○	○							絶滅危惧 I A類		VU	VU	
292		イセウキヤガ ラ	○								絶滅危惧 I B類		NT		
293		ラン	エビネ	○	○						NT	絶滅危惧 II類	※ 2	VU	VU
294			ギンラン		○								※ 2	VU	VU
295	ユウシュンラ ン		○							VU	絶滅危惧 I B類		EX	NT	
296	キンラン		○	○						VU	絶滅危惧 II類		VU	VU	
297	ササバギンラ ン			○									VU	NT	
298	ナギラン		○							VU	絶滅危惧 I A類				
299	マヤラン		○							VU					
300	サガミラン		○								絶滅危惧 II類				
301	クマガイソウ		○	○						VU	絶滅危惧 I B類		EX	CR	
302	アツモリソウ		○							VU	絶滅			CR	
303	カキラン		○								絶滅危惧 I B類		DD	EN	
304	タシロラン		○							NT				CR	
305	アケボノシュ スラン		○								絶滅危惧 II類		VU	NT	

表 8-4-2-9(12) 高等植物に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
306	ラン	ベニシュスラン	○	○							絶滅危惧 I B類			VU
307		シュスラン	○								絶滅危惧 I A類			VU
308		サギソウ	○						NT				EX	EX
309		ミズトンボ	○						VU	絶滅危惧 I B類				EX
310		ヒメノヤガラ		○					VU	絶滅危惧 I B類				CR
311		クロムヨウラン	○	○						絶滅危惧 II類				VU
312		ジガバチソウ		○						絶滅危惧 I B類		EX		VU
313		スズムシソウ	○							絶滅危惧 I B類				VU
314		ヒメフタバラン	○							絶滅				CR
315		アオフタバラン	○							絶滅危惧 II類				CR
316		ヨウラクラン	○							絶滅危惧 II類		DD		VU
317		ウチョウラン	○						VU	絶滅危惧 I A類				
318		ジンバイソウ	○							絶滅危惧 II類				
319		ツレサギソウ	○							絶滅危惧 I A類				EN
320		ヤマサギソウ	○							絶滅危惧 I A類				VU
321		オオバノトンボソウ		○								※ 2		
322		オオヤマサギソウ	○							絶滅危惧 II類				
323		トキシソウ	○						NT	絶滅危惧 I A類				EX
324		ヤマトキシソウ	○							絶滅危惧 I B類				
325		カヤラン	○	○						絶滅危惧 II類		EX		VU
326	ヒトツボクロ	○							絶滅危惧 II類				VU	
327	オオハクウンラン	○						VU	絶滅危惧 I A類					
328	キバナノショウキラン	○						EN					VU	
合計	92科	328種類	305種類	58種類	0種類	0種類	1種類	0種類	123種類	268種類	7種類	139種類	180種類	

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。
注2. 分類、配列等は「自然環境保全基礎調査 植物目録1987」環境庁（昭和62年）に準拠した。
注3. 高等植物に係る重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ④「神奈川県文化財保護条例」（昭和30年、神奈川県条例第13号）
県：県指定天然記念物
- ⑤「相模原市文化財保護条例」（昭和32年、相模原市条例第23号）
「川崎市文化財保護条例」（昭和34年、川崎市条例第24号）
「横浜市文化財保護条例」（昭和62年、横浜市条例第53号）
「愛川町文化財保護条例」（昭和35年、愛川町条例第1号）
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
- ⑦「環境省第4次レッドリスト 植物Ⅰ（維管束植物）」（平成24年、環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑧「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）
絶滅、野生絶滅、絶滅危惧Ⅰ類、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑩「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑－関東・中部（山岳）編－」（昭和57年、環境庁）および「神奈川県立自然公園条例」（昭和57年、第19号）
国定：国定公園指定植物、県立：県立公園指定植物
- ⑭東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種
- ⑮東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 選定基準⑭、⑮については調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

※1県指定の天然記念物であるギフチョウの食草のため

※2丹沢大山国定公園および神奈川県立丹沢大山自然公園の指定植物（相模原市緑区丘陵部の自然公園内で確認された種類のみ記載）

※3神奈川県立丹沢大山自然公園の指定植物（相模原市緑区丘陵部の自然公園内で確認された種類のみ記載）

また、現地で確認された重要な高等植物の確認地点を、表 8-4-2-10 に示す。

表 8-4-2-10(1) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性がある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性がある範囲	変更の可能性のある範囲外	
変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	変更の可能性のある範囲の近傍		相当離れた地域				
1	ミズニラ	水辺			○	○		○
2	コシダ	樹林			○			
3	シノブ	樹林						○
4	ナライシダ	樹林			○			
5	オニイノデ	樹林						○

表 8-4-2-10(2) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外	
				変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域		変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域
6	ジャヤナギ	水辺			○			
7	オノエヤナギ	水辺			○			
8	ヤナギイノコズチ	樹林						○
9	フクジュソウ	樹林						○
10	アズマイチゲ	樹林						○
11	オキナグサ	草地						○
12	シギンカラマツ	樹林					○	○
13	ルイヨウボタン	樹林				○		○
14	イカリソウ	樹林			○			
15	カンアオイ	樹林					○	○
16	タマノカンアオイ	樹林			○			
17	トモエソウ	草地			○			
18	ヤマブキシソウ	樹林					○	○
19	コイヌガラシ	水辺			○			
20	イワレンゲ	草地						○
21	アズマツメクサ	水辺			○			
22	チダケサシ	草地			○			
23	ムカゴネコノメ	水辺					○	○
24	タコノアシ	水辺			○			
25	ナガバノスミレサイシン	樹林						○
26	ウシタキシソウ	市街地					○	
27	シヤクジョウソウ	樹林					○	
28	サツキ	水辺						○
29	ナツハゼ	草地						○
30	リンドウ	草地						○
31	タチキランソウ	草地					○	
32	ミゾコウジュ	水辺			○			○
33	ヤマホオズキ	水辺					○	

表 8-4-2-10(3) 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の 生育環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性のある 範囲外		変更の 可能性 のある 範囲	変更の可能性のある 範囲外	
				変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域		変更の 可能性 のある 範囲の 近傍	相当離 れた地 域
34	カワヂシャ	水辺			○			○
35	アワコガネギク	樹林						○
36	タカオヒゴタイ	樹林					○	
37	カタクリ	樹林						○
38	ヤマユリ	草地						○
39	アマドコロ	草地		○	○			
40	アマナ	草地				○	○	○
41	キツネノカミソリ	草地			○			
42	ニガカシュウ	水辺			○			
43	ミズタカモジグサ	耕作地			○			○
44	セトガヤ	耕作地			○			
45	ショウブ	水辺			○			
46	カンエンガヤツリ	水辺		○	○			
47	コマツカサススキ	水辺				○		
48	エビネ	樹林		○	○	○	○	○
49	ギンラン	樹林		○	○			○
50	キンラン	樹林		○	○	○	○	○
51	ササバギンラン	樹林		○	○			
52	クマガイソウ	樹林						○
53	ベニシュスラン	樹林				○		
54	ヒメノヤガラ	樹林				○		
55	クロムヨウラン	樹林				○		
56	ジガバチソウ	樹林						○
57	オオバノトンボソウ	樹林						○
58	カヤラン	樹林					○	○

イ. 高等植物に係る植生

7) 高等植物に係る植生の状況

文献調査及び現地調査において、表 8-4-2-11 及び図 8-4-2-2 に示すとおり、合計 39 の高等植物に係る群落等が確認された。

表 8-4-2-11(1) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
1	シキミーモミ群集	相模原市緑区丘陵部にわずかに分布する、モミが優占する常緑針葉樹林である。山頂から斜面上部に成立しており、大径木のモミがまとまって生えている。階層構造がよく発達しており、構成種も豊富である等、自然植生もしくは自然植生に近い林分であった。
2	ヤナギ高木群落 (VI)	川崎市の多摩川沿いに分布する、シロシダレヤナギが優占する高木性の落葉広葉樹林である。いずれも小面積であり、林床にはクサヨシやヤブガラシ、コセンダングサ、オオブタクサ等の河川の低水敷に多い植物が見られた。
3	タチヤナギ群集	川崎市の多摩川沿いに分布する、タチヤナギが優占する低木性の落葉広葉樹林である。湿潤な立地に成立しており、タチヤナギのほか、カワヤナギやジャヤナギ、シロシダレヤナギ等のヤナギ類が多く混生していた。
4	コナラ群落	調査地域の全域に分布する、コナラやクヌギが優占した落葉広葉樹の二次林である。かつての薪炭林として市街地にもわずかに残存していた。本群落内には、クヌギーコナラ群集とクリーコナラ群集があると考えられるが、調査地域はその移行帯にあたり、細分することは困難であった。
5	ケヤキ群落 (VII)	河川に面した急傾斜地に分布する、ケヤキが優占した落葉広葉樹の二次林である。萌芽した形跡が見られることから二次林と判断したが、道志川沿い等には、かなり自然林に近い林分も見られた。ケヤキのほか、コナラやクヌギ、ムクノキ等が多く見られ、シラカシやアラカシ等の常緑広葉樹も混生していた。
6	エノキ群落	河川周辺に分布する、エノキが優占する落葉広葉樹林である。いずれも小面積であり、やや湿潤な立地に成立していた。エノキのほか、ムクノキやケヤキ、オニグルミ、ヤマグワ等が混生していた。
7	クサギーアカメガシワ群落	伐採跡地や造成地、耕作放棄地等に分布する、先駆的な樹木が優占する落葉広葉樹林である。ヌルデやアカメガシワのほか、カラスザンショウ、ネムノキ、タラノキ、クサギ、ミズキ等の先駆的な樹木が見られた。クマイチゴやモミジイチゴ等の有刺植物やフジ、サルトリイバラ、スイカズラ等のつる植物も多く生育していた。
8	オニグルミ群落 (VII)	河川や集落の周辺に小面積で分布する、オニグルミが優占した落葉広葉樹林である。いずれも小面積であるため、やや湿潤な立地に成立していること以外の特徴は見られなかった。
9	ヤマグワ群落	河川周辺や耕作放棄地に小面積で分布する、ヤマグワが優占した落葉広葉樹林である。構成種にはヒメコウゾ等の先駆的な樹木が含まれており、エノキ群落やオニグルミ群落との共通種も多く見られた。
10	ヤマツツジーアカマツ群集	相模原市緑区丘陵部にわずかに分布する、アカマツが優占した常緑針葉樹の二次林である。尾根部の比較的乾燥した立地に成立しており、アカマツの枯損や倒木が目立っていた。枯損したアカマツに変わり、ミズキやクマノミズキといった先駆的な樹木が混生しており、下層にはアオキやアラカシ、ヒサカキといった常緑樹が多く生育していた。

表 8-4-2-11 (2) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
11	アズマネザサ群落	伐採跡地や耕作放棄地、河川の堤防周辺等に分布する、アズマネザサが密生するササ草地である。下層は暗く、構成種が貧弱な群落であった。
12	低木群落	相模原市緑区丘陵部に分布する、萌芽更新したコナラやクヌギが優占した低木～亜高木性の落葉広葉樹の二次林である。構成種はコナラ群落との共通性が高いが、階層構造が未発達であり、アカメガシワやヌルデ等の先駆的な樹木を多く含んでいた。
13	クズ群落	つる植物のクズが上層を覆った草地である。カナムグラやヤブガラシといった同じつる植物が混生しており、下層にはススキやオギ、セイタカアワダチソウ等のやや高茎の草本が多く見られた。
14	ススキ群団 (VII)	伐採跡地や造成地、耕作放棄地等に分布する、ススキが優占する高茎草地である。アズマネザサやセイタカアワダチソウが混生していたほか、クズやヤブガラシ、ヘクソカズラ等のつる植物も多く見られた。また、ヌルデやモミジイチゴ等、クサギーアカメガシワ群落との共通性も高かった。
15	チガヤーススキ群落	河川の堤防や造成地等に分布する、チガヤが優占するやや低茎の草地である。定期的な草刈りによって維持されている草地と考えられ、ツリガネニンジンやワレモコウといった人里草地の生育種が多く見られた。
16	セイタカアワダチソウ群落 (外来種二次草原)	造成地や耕作放棄地等に分布する、外来種のセイタカアワダチソウが優占する高茎草地である。セイタカアワダチソウが密生する植分が多く、他の構成種は比較的単純であった。
17	セイバンモロコシ群落 (外来種二次草原)	河川の堤防や造成地等に分布する、外来種のセイバンモロコシが優占する高茎草地である。草刈り等により花序を形成していない植分では、相観的にススキ群落やチガヤ群落によく似ていた。
18	オニウシノケグサ群落 (外来種二次草原)	造成法面や河川の堤防沿い等に分布する、緑化由来のオニウシノケグサが優占する低茎草地である。同じく緑化由来の植物として、オオウシノケグサやカモガヤ、コヌカグサ、シロツメクサ等も見られた。
19	オオブタクサ群落 (外来種二次草原)	外来種の一年草であるオオブタクサが優占する高茎草地である。底質が砂泥質でやや富栄養な立地に成立しており、オギやコセンダングサ、カナムグラ等が多く混生していた。
20	アレチウリ群落 (外来種二次草原)	川崎市多摩川沿いに分布する、特定外来生物のアレチウリが上層を覆っている草地である。河川沿いの湿潤で富栄養な立地に成立しており、下層にはクサヨシやオギ、キクイモ等が見られた。
21	伐採跡地群落 (VII)	相模原市緑区丘陵部の伐採跡地に分布する、伐採直後の草地である。先駆的な植物が疎らに生え、伐採前の構成種も多く見られた。
22	ヒメガマ群落	川崎市市街地周辺の遊水池に分布する、ヒメガマが優占する高茎草地である。抽水植物のヒメガマが密生しており、他の構成種は貧弱であった。
23	セリークサヨシ群集	多摩川や串川の河岸に分布する、クサヨシが優占する低茎草地である。秋季調査時には倒れたクサヨシが密生しており、他の構成種が比較的少なかった。
24	ヨシ群落	休耕地や池等の湿地に分布する、ヨシが優占する高茎草地である。底質が泥や粘土質な立地に成立しており、構成種は比較的単純であった。
25	ツルヨシ群集	多摩川や相模川、道志川、串川の河岸に分布する、ツルヨシが優占する高茎草地である。底質は砂から砂礫質で、頻繁に冠水するような立地に成立していた。

表 8-4-2-11(3) 高等植物に係る群落及び土地利用の概要

No.	群落名	概要
26	オギ群集	河川沿いや造成地等に分布する、オギが優占する高茎草地である。水はけがよい砂質の立地に多く、河川の冠水地等に広く成立していた。
27	ヨモギ・メドハギ群落	道志川の砂礫河原に分布する、ヨモギやメドハギが優占する植被率が低い低茎草地である。カタバエノコロやマルバヤハズソウ、カラケツメイ、チャガヤツリといった砂礫河原を特徴づける植物が多く混生していた。
28	河辺一年生草本群落(タウコギクラス等)	河川の水際に分布する、オオイヌタデやイヌビエ、アメリカセンダングサ等の一年草が優占する草地である。湿性の立地に成立しており、同じく一年草のヤナギタデやオオクサキビ、ヒロハホウキギク等も多く見られた。
29	スギ・ヒノキ・サワラ植林	調査地域の全域に分布する、常緑針葉樹のスギやヒノキが植林された植林地である。斜面下部や谷部にスギが多く、尾根部や斜面上～中部にヒノキが多く植林されている傾向が見られた。空中湿度が高いスギ植林では、シダ植物や暖温帯に分布の中心を持つ植物がよく生育していた。
30	スギ・ヒノキ・サワラ植林(低木林)	常緑針葉樹のスギやヒノキが植林された、若齢の植林地である。植栽木の樹冠が上層を覆っておらず、相観は植栽木の樹高や管理の程度等により様々であった。構成種はクサギ・アカメガシワ群落やスキ群落との共通性が高かった。
31	アカマツ植林	相模原市緑区丘陵部のゴルフ場周辺に分布する、常緑針葉樹のアカマツが植栽された植林地である。アカマツはやや疎らに植えられており、林床もよく管理された林分であった。
32	ニセアカシア群落	緑化用として広まった外来種のニセアカシア(ハリエンジュ)が優占する落葉広葉樹林である。河川沿いや造成地等に成立しており、階層構造が未発達な林分が多く見られた。
33	竹林	集落や河川周辺等に分布する、モウソウチクやマダケ、ハチク等が植林された植林地である。植林から二次的に広がった林分も含まれると考えられるが、管理されずに荒廃した植林地も多く、区別はできなかった。
34	ゴルフ場・芝地	相模原市緑区丘陵部のゴルフ場に分布する、植栽されたシバが優占する低茎草地である。
35	メヒシバ・エノコログサ群落(路傍・空地雑草群落)	造成地や放棄耕作地等に分布する、メヒシバやアキノエノコログサ等の一年草が優占する草地である。乾性の立地に成立しており、同じく一年草のヒメムカシヨモギやオオアレチノギク、ヒメジョオン等が多く混生するほか、セイタカアワダチソウやセイバンモロコシ、シマスズメノヒエ等の多年草の外来種も多く見られた。
36	果樹園	クリやウメ、カキノキ等が植林されており、小面積ではあるが、都市部も含めて広く点在していた。
37	茶畑	相模川より西側の山間部にわずかに点在しており、果樹園や畑地に隣接していた。
38	畑雑草群落	耕作中の畑地に分布する、一年草がやや疎らに生える低茎草地である。構成種としては、メヒシバやシロザ、コゴメガヤツリ、ザクロソウ、コニシキソウ、スベリヒユ、カラスビシャク、ハキダメギク等が目立っていた。
39	水田雑草群落	耕作中の水田に分布する、湿性の低茎草地である。構成種としては、セリ、コオニタバコ、スズメノテッポウ、タネツケバナ等が目立っていた。

注1. 群落名は「自然環境保全基礎調査(環境省)・統一凡例」に準拠した。

凡例

■ シキミーモミ群集	■ ツルヨシ群集
■ ヤナギ高木群落(VI)	■ オギ群集
■ タチヤナギ群集	■ ヨモギーメドハギ群落
■ コナラ群落	■ 河辺一年生草本群落 (タウコギクラス等)
■ ケヤキ群落(VII)	■ スギ・ヒノキ・サワラ植林
■ エノキ群落	■ スギ・ヒノキ・サワラ植林(低木林)
■ クサギーアカメガシワ群落	■ アカマツ植林
■ オニグルミ群落(VII)	■ ニセアカシア群落
■ ヤマグワ群落	■ 竹林
■ ヤマトツジーアカマツ群集	■ ゴルフ場・芝地
■ アズマネザサ群落	■ メヒシバーエノコログサ群落 (路傍・空地雑草群落)
■ 低木群落	■ 果樹園
■ クズ群落	■ 茶畑
■ ススキ群団(VII)	■ 畑雑草群落
■ チガヤーススキ群落	■ 水田雑草群落
■ セイタカアワダチソウ群落(外来種二次草原)	■ 市街地
■ セイバンモロコシ群落(外来種二次草原)	■ 緑の多い住宅地
■ オニウシノケグサ群落(外来種二次草原)	■ 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
■ オオブタクサ群落(外来種二次草原)	■ 造成地
■ アレチウリ群落(外来種二次草原)	■ 開放水面
■ 伐採跡地群落(VII)	■ 自然裸地
■ ヒメガマ群落	
■ セリークサヨシ群集	
■ ヨシ群落	

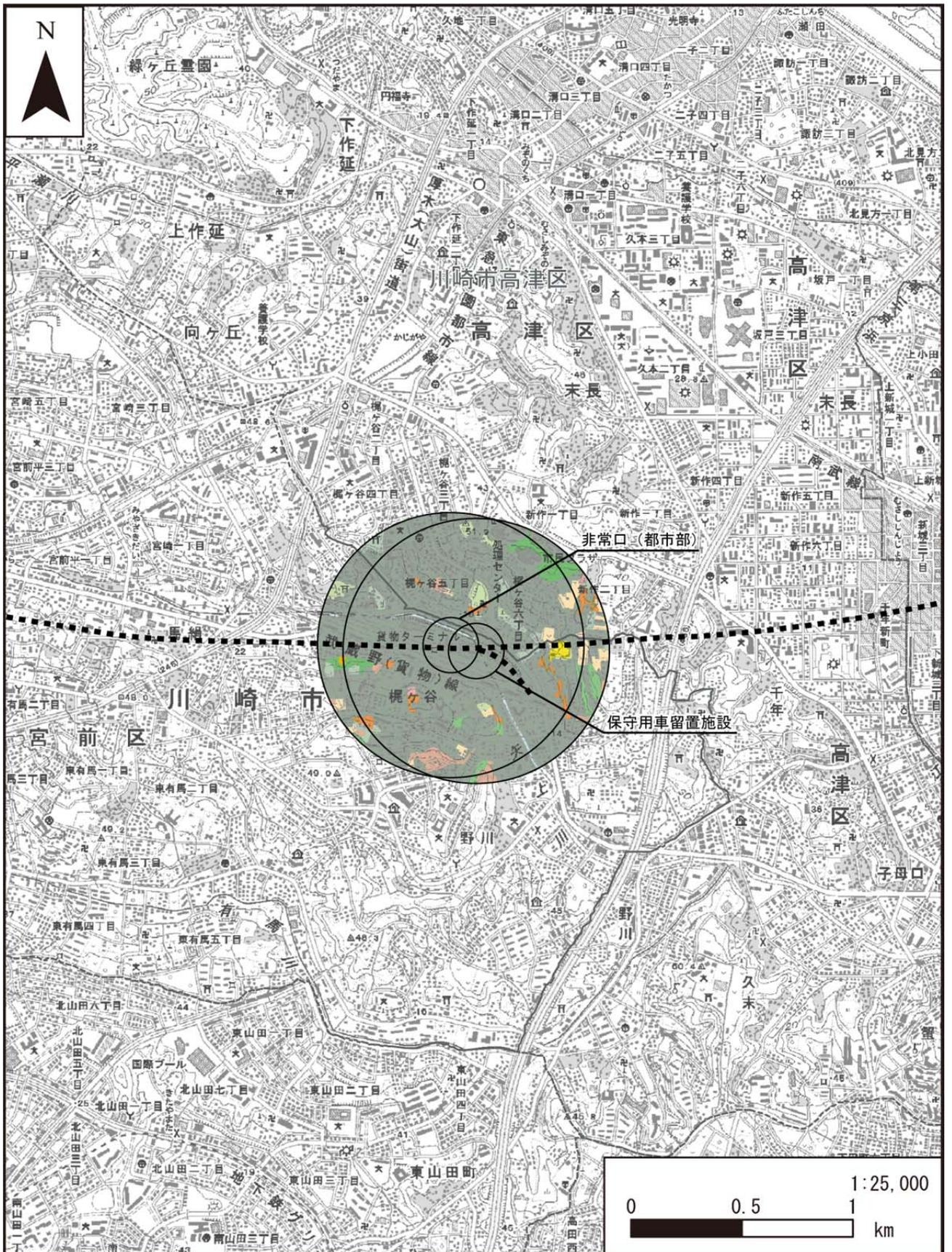
図 8-4-2-2(1) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

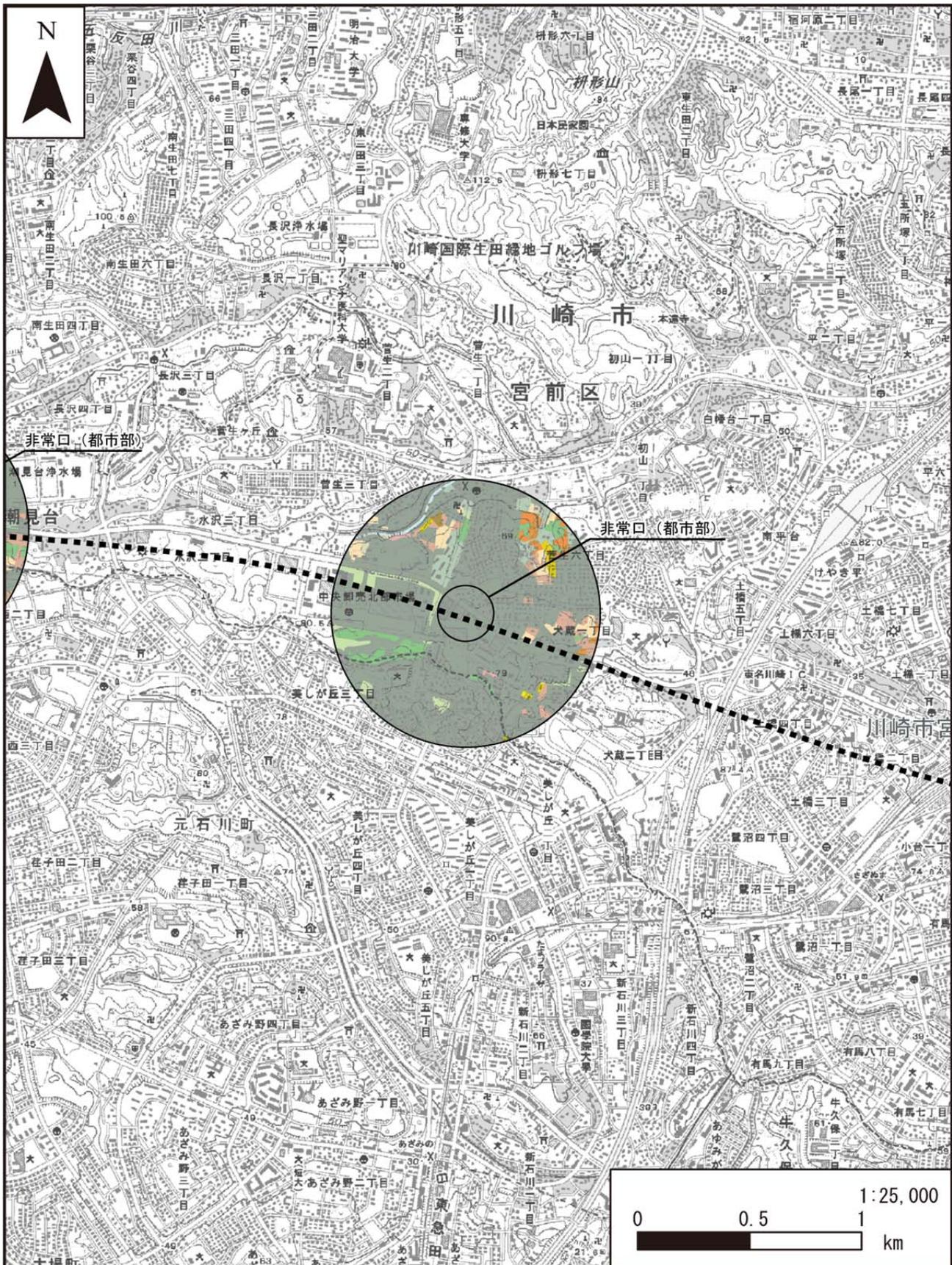
図 8-4-2-2(2) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

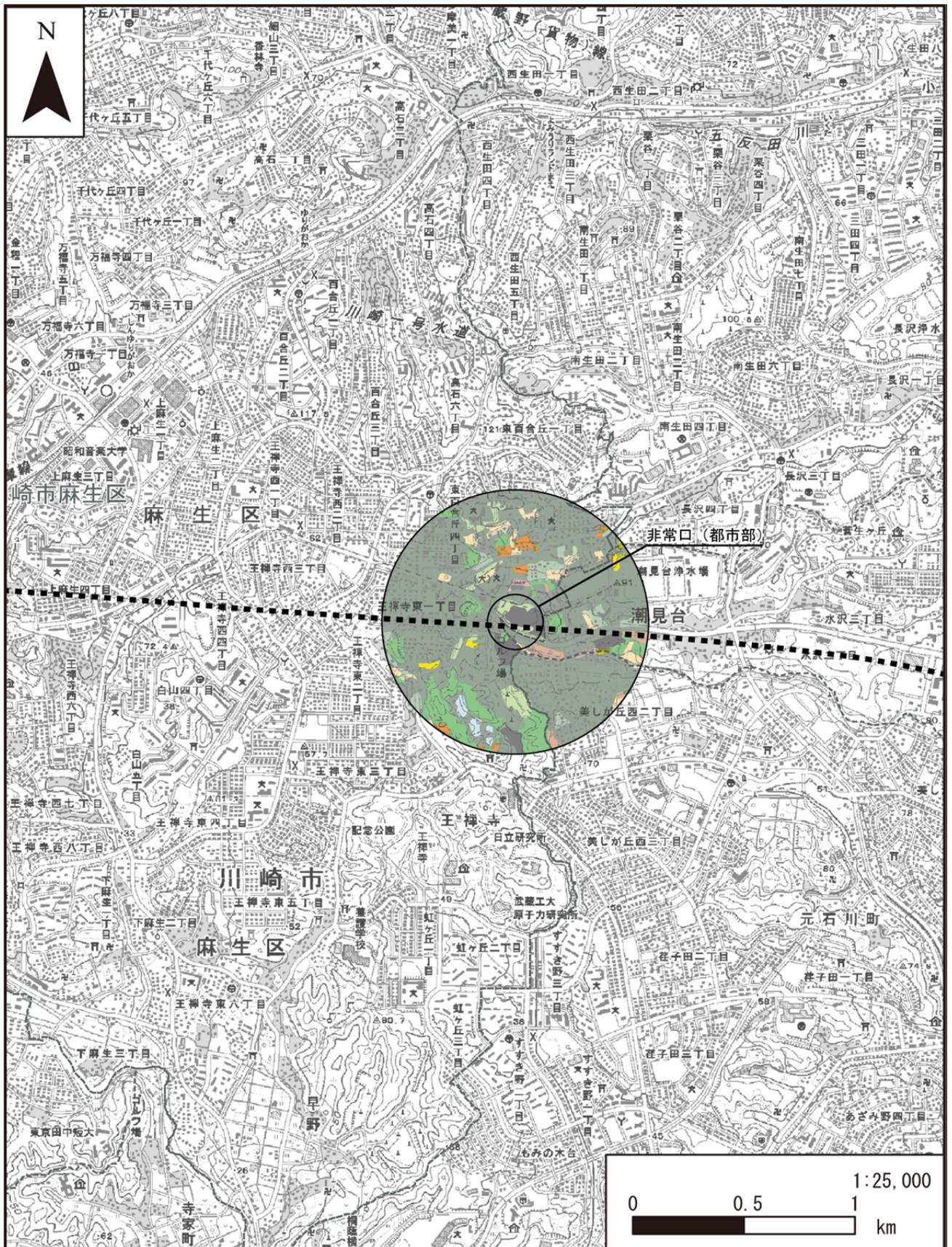
図 8-4-2-2(3) 植生図



凡例

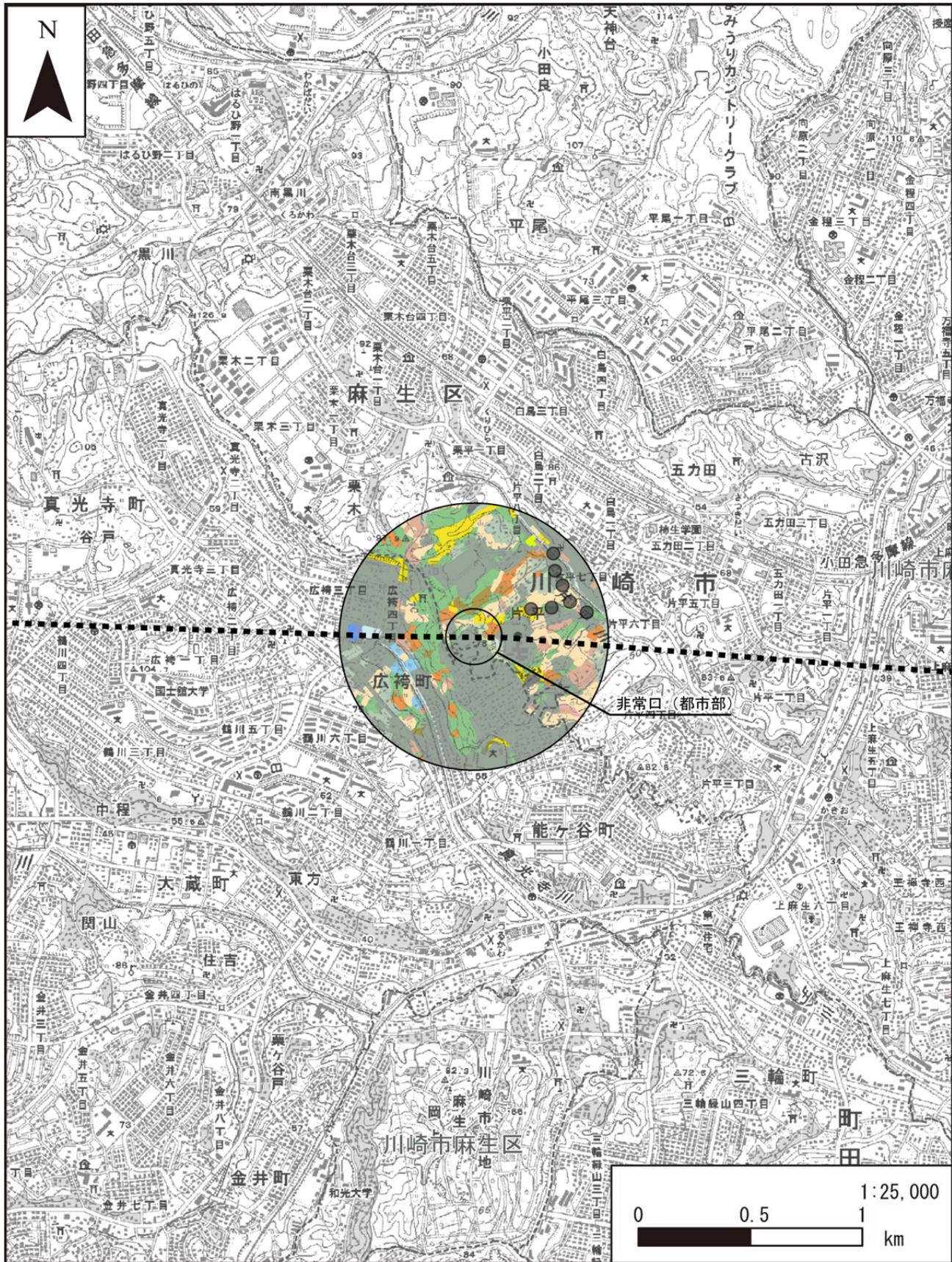
- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図 8-4-2-2(4) 植生図



- 凡例
- ⋯⋯ 計画路線(トンネル部)
 - 計画路線(地上部)
 - 都県境
 - 市区町村境

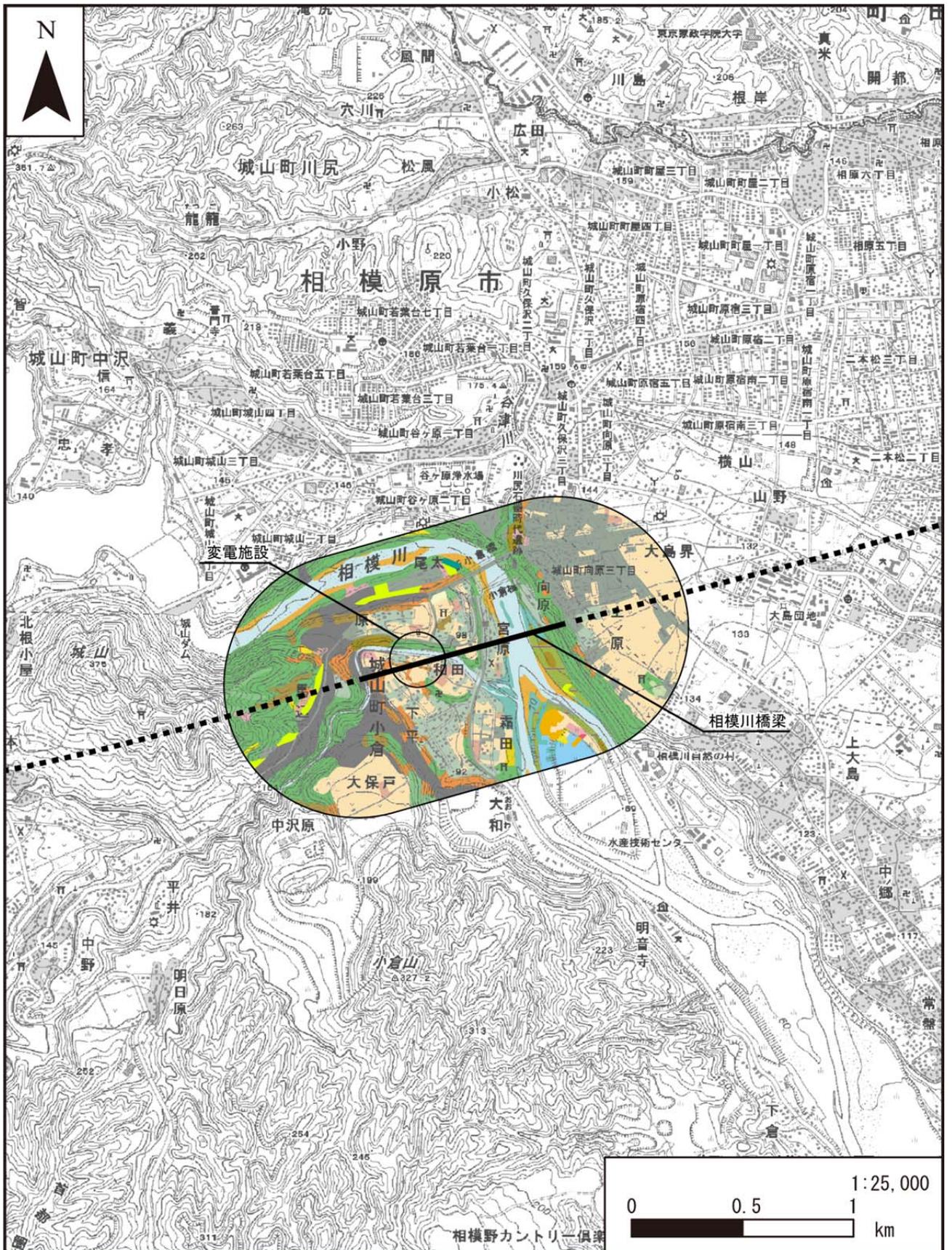
図 8-4-2-2(5) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 工事用道路
- 都県境
- 市区町村境

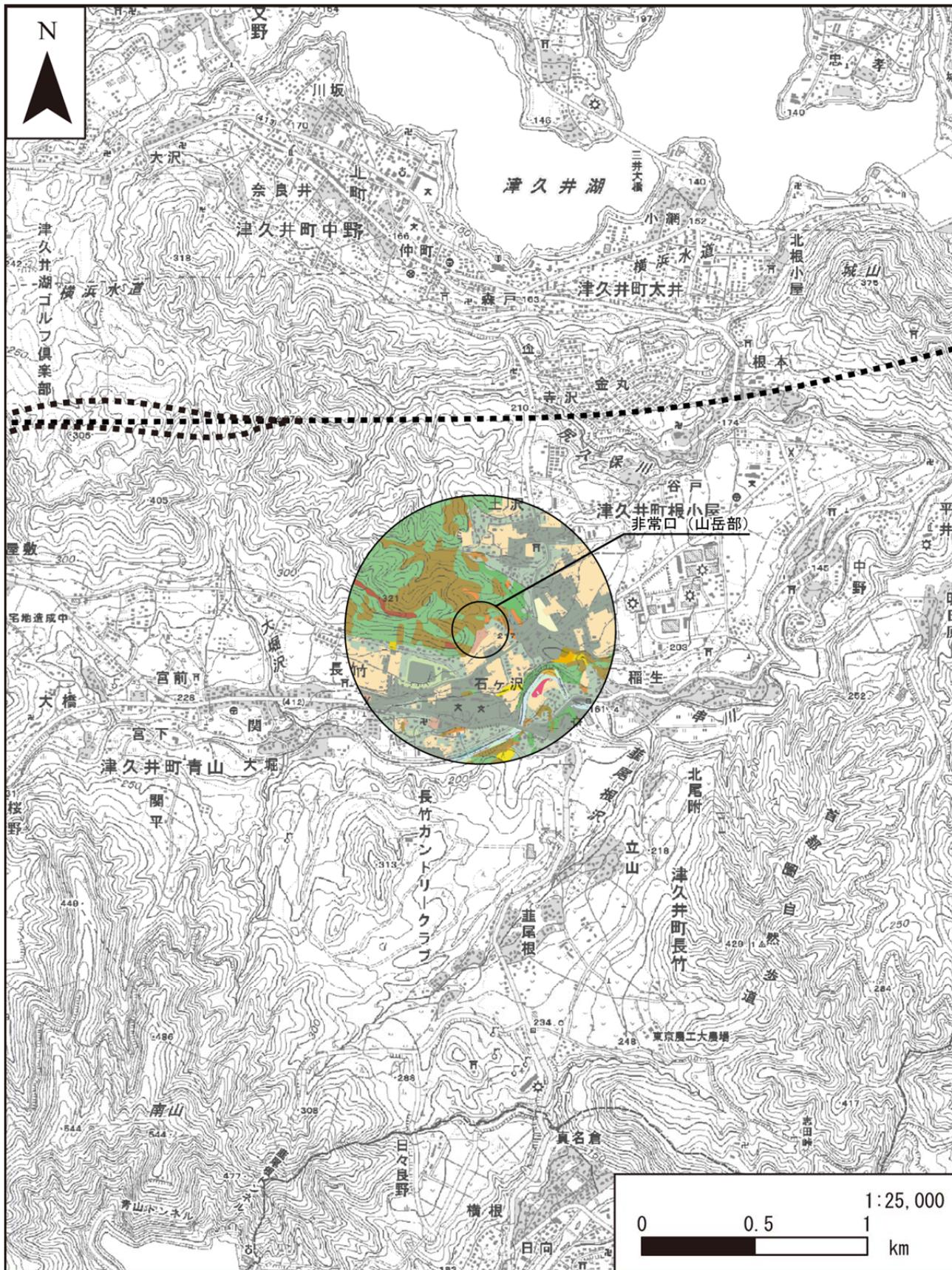
図 8-4-2-2(6) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- - - - 都県境
- 市区町村境

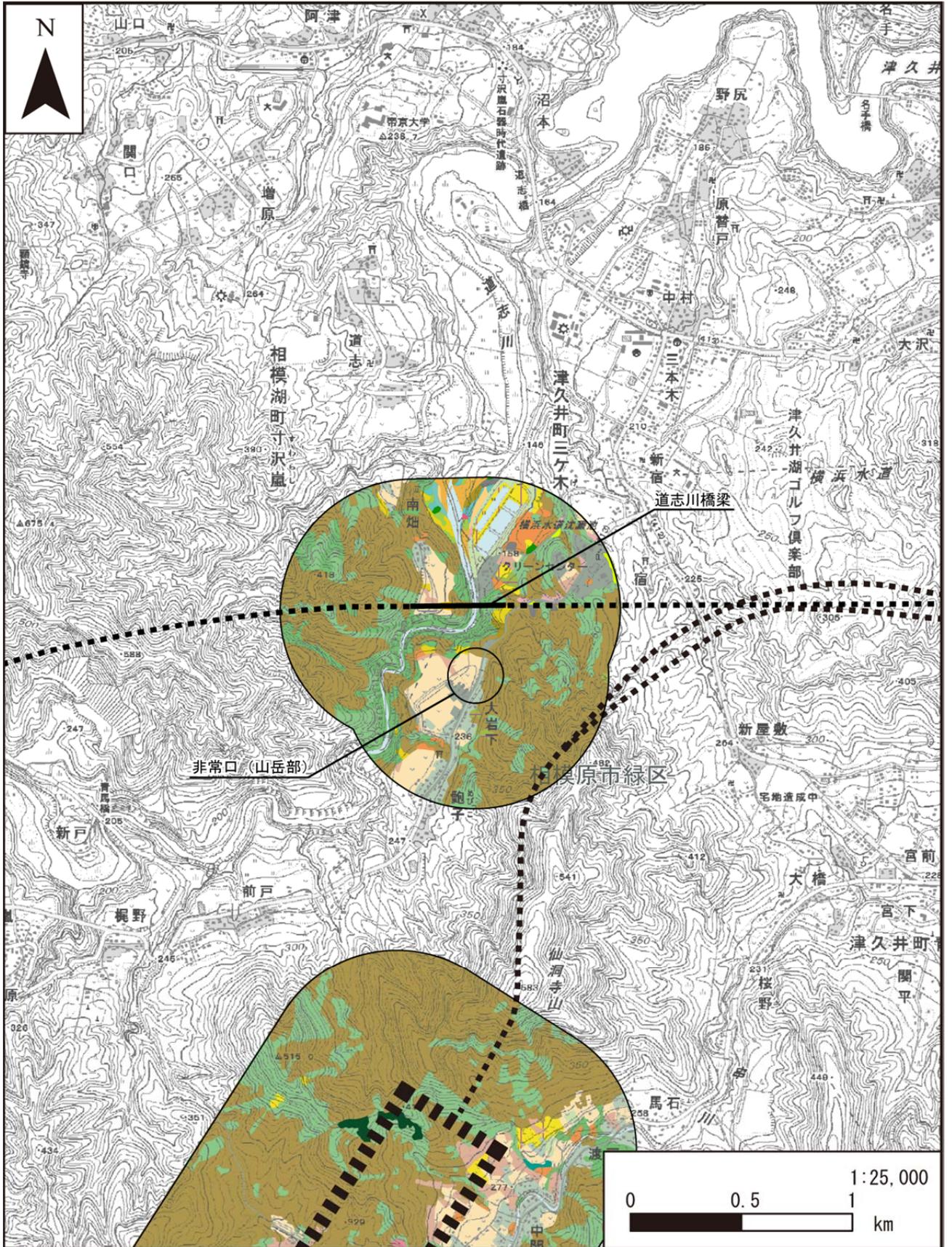
図 8-4-2-2(7) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

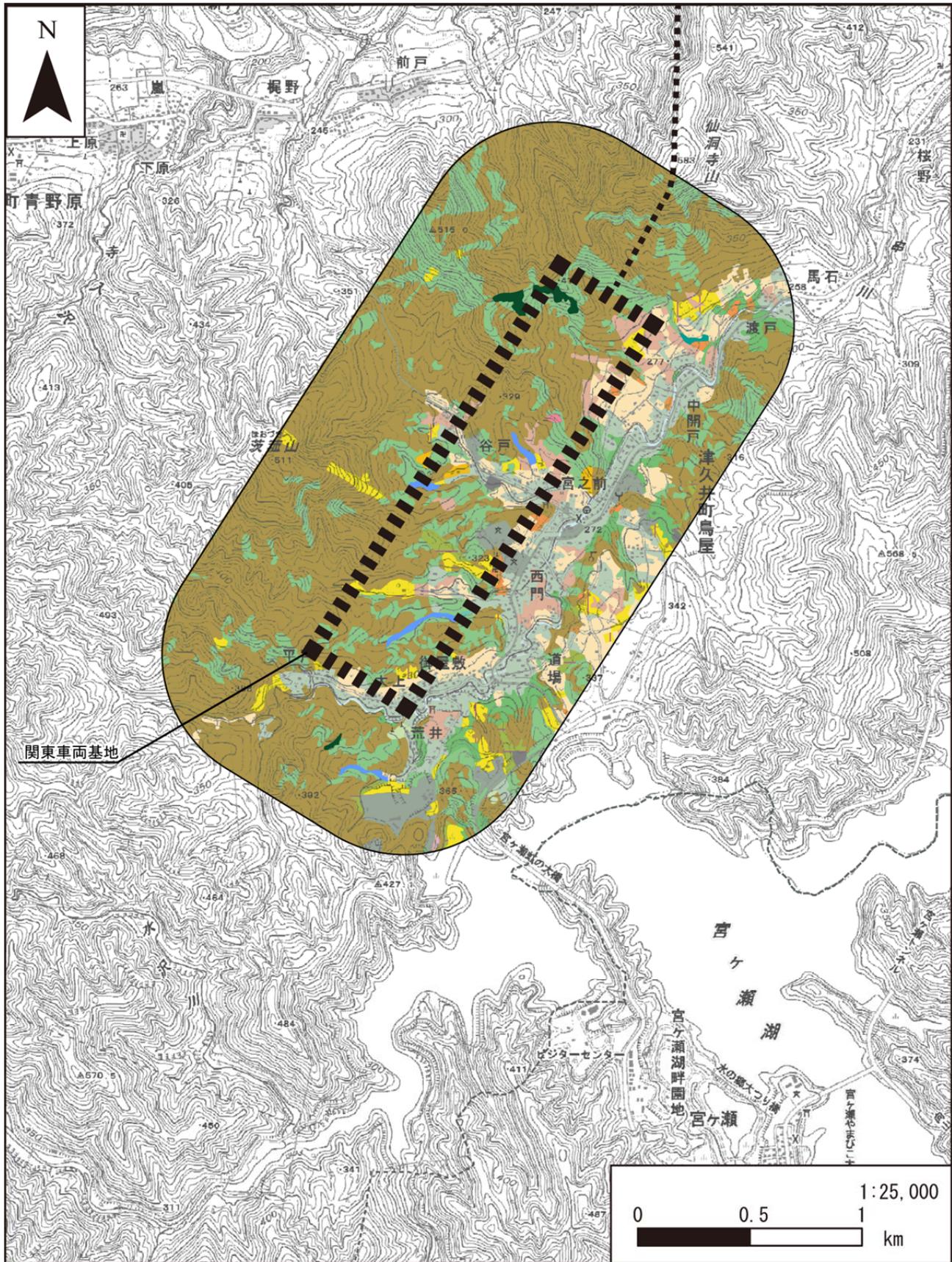
図 8-4-2-2(8) 植生図



凡例

- ⋯⋯ 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図 8-4-2-2(9) 植生図

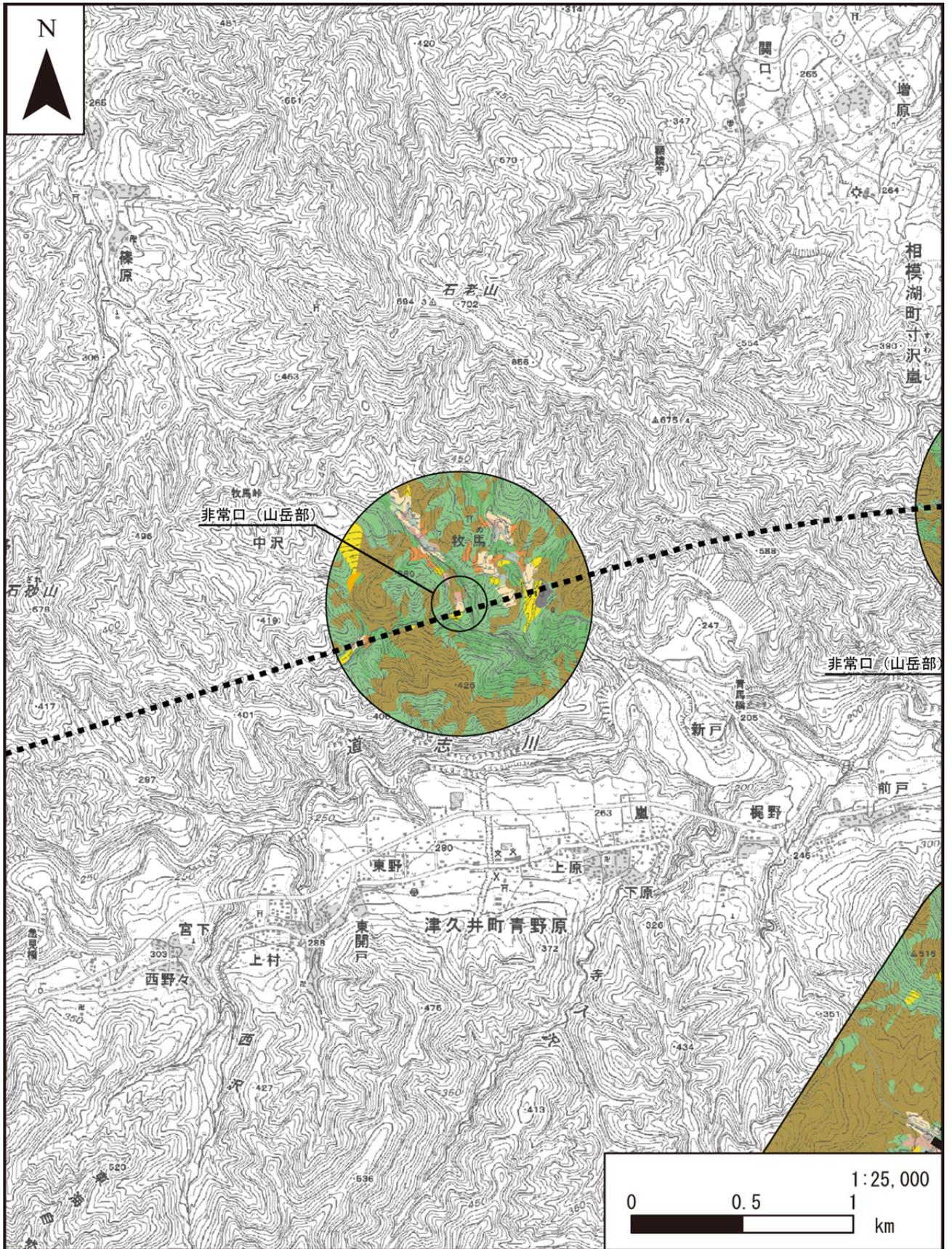


関東車両基地

凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

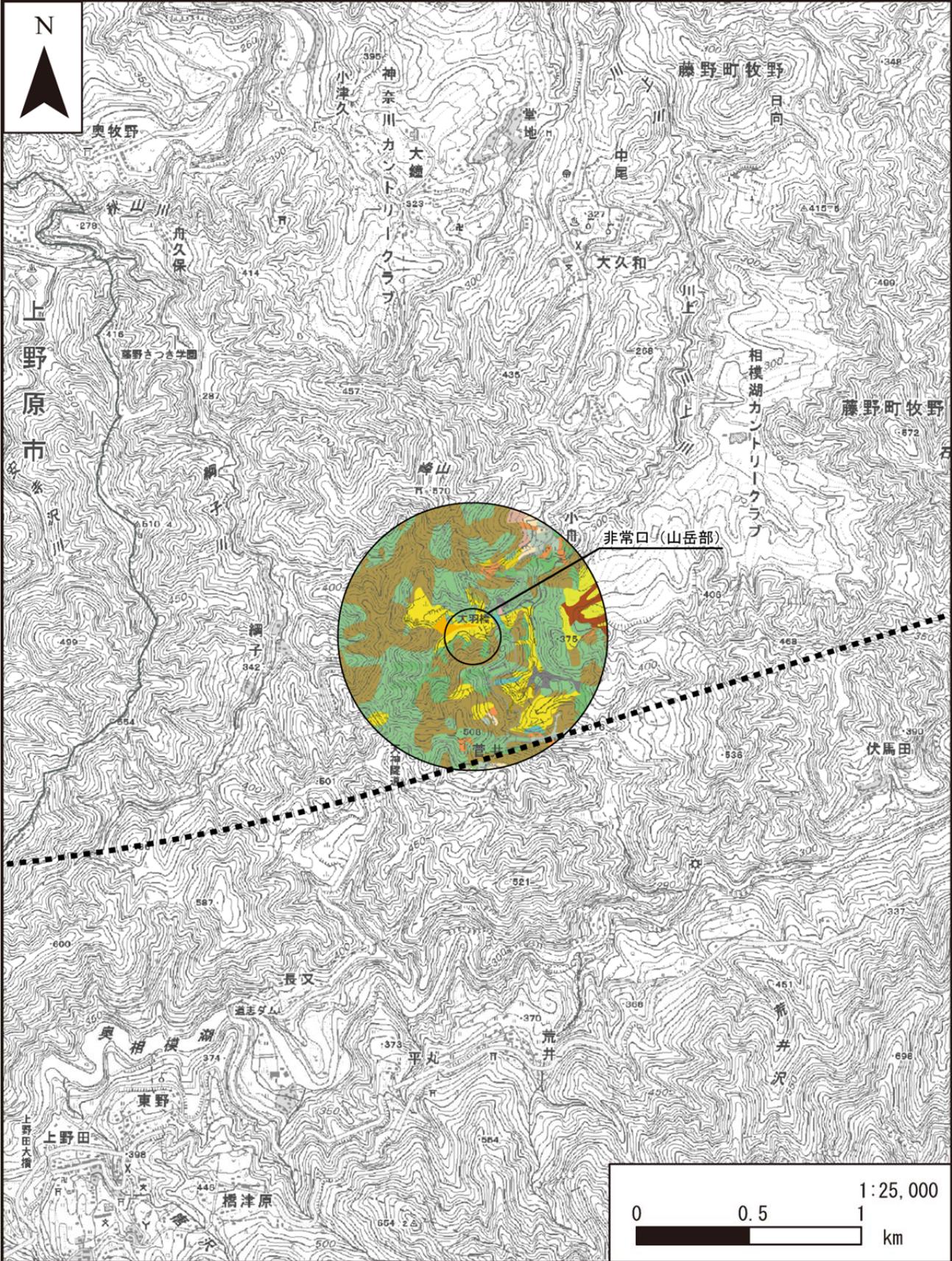
図 8-4-2-2(10) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図 8-4-2-2(11) 植生図



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 計画路線(地上部)
- 都県境
- 市区町村境

図 8-4-2-2(12) 植生図

イ) 高等植物に係る重要な群落の確認状況

文献調査及び現地調査により確認された高等植物に係る重要な群落は8群落であった。
文献及び現地で確認された高等植物に係る重要な群落とその選定基準を、表 8-4-2-12 に示す。

表 8-4-2-12 高等植物に係る重要な群落確認一覧

No.	群落名	確認状況		選定基準								
		文献	現地	①	④	⑤	⑥	⑧	⑨	⑪	⑫	⑬
1	牧馬の夏緑広葉樹林	○	○					○	1		○	
2	自然環境保全地域 (城山)	○	○				○					
3	自然環境保全地域 (寸沢嵐)	○	○				○					
4	自然環境保全地域 (仙洞寺山)	○	○				○					
5	自然環境保全地域 (茨菰山)	○	○				○					
6	自然環境保全地域 (牧馬)	○	○				○					
7	自然環境保全地域 (石砂山)	○	○				○					
8	相模川左岸のケヤキ 群落		○									○
計	8 群落	7 群落	8 群落	0 群落	0 群落	0 群落	6 群落	1 群落	1 群落	0 群落	1 群落	1 群落

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された群落について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 重要な群落の選定基準は以下のとおりである。

- ①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)
特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ④「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年、神奈川県条例第13号)
県：県指定天然記念物
- ⑤「相模原市文化財保護条例」(昭和32年、相模原市条例第23号)
「川崎市文化財保護条例」(昭和34年、川崎市条例第24号)
「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)
「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)
市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物
- ⑥「神奈川県自然環境保全条例」(昭和47年、神奈川県条例第52号)
○：自然環境保全地域
- ⑧「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)
県レッド：掲載植物群落
- ⑨「植物群落レッドデータ・ブック」(平成8年、我が国における保護上重要な植物種および植物群落研究委員会植物群落分科会)
1：要注意、2：破壊の危惧、3：対策必要、4：緊急に対策必要
- ⑩第4回自然環境基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書 関東版(Ⅱ)(埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都)
(平成3年、環境庁)
指定：指定されている巨木、巨樹

- ⑫第2回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）
（昭和55年、環境庁）
- 第3回自然環境保全基礎調査 日本の重要な植物群落Ⅱ 南関東版（埼玉県・千葉県・神奈川県・東京都）
（昭和63年、環境庁）
- 第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書（平成12年、環境庁）
指定：掲載されている特定植物群落
- ⑬専門家等の助言により選定した種
○：選定種

また、現地で確認された高等植物に係る重要な群落の確認地点を、表 8-4-2-13 に示す。

表 8-4-2-13 現地調査で確認された重要な群落の確認位置

番号	群落名	確認群落の生育環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外	
				変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域		変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域
1	牧馬の夏緑広葉樹林	樹林						○
2	自然環境保全地域（城山）	樹林						○
3	自然環境保全地域（寸沢嵐）	樹林						○
4	自然環境保全地域（仙洞寺山）	樹林				○	○	○
5	自然環境保全地域（茨菰山）	樹林				○	○	○
6	自然環境保全地域（牧馬）	樹林						○
7	自然環境保全地域（石砂山）	樹林						○
8	相模川左岸のケヤキ群落	樹林				○	○	○

ウ. 蘚苔類及び地衣類

7) 蘚苔類の状況

文献調査及び現地調査の結果、蘚苔類に係る重要な種は8科9種であった(「資料編 20-1 植物出現種リスト」及び「資料編 20-2 植物文献調査確認種リスト」参照)。文献及び現地で確認された蘚苔類に係る重要な種とその選定基準を、表 8-4-2-14 に示す。

表 8-4-2-14 蘚苔類に係る重要な種確認一覧

No.	科名	種名	確認状況		選定基準									
			文献	現地	①	②	④	⑤	⑦	⑧	⑩	⑭	⑮	
1	ホウオウゴケ	ホウオウゴケ		○							注目			
2	ヒナノハイゴケ	アオシマヒメシワゴケ		○						VU				
3	チョウチンゴケ	タチチョウチンゴケ		○						CR+EN				
4	ヒムロゴケ	フクラゴケ		○							I類			
5	ハイヒモゴケ	イトゴケ		○							I類			
6	ツヤゴケ	オオミツヤゴケ		○						VU	I類			
7	サナダゴケ	オオサナダゴケ		○						VU				
8	ウキゴケ	ウキゴケ	○	○							準絶			
9		イチョウウキゴケ	○							VU	II類			
計	8科	9種	2種	8種	0種	0種	0種	0種	0種	5種	6種	0種	0種	0種

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

文献調査では対象事業実施区域を含む市区町村単位の分布情報を整理した。

注2. 分類、配列等は原則として、「自然環境保全基礎調査 植物目録1987」(昭和62年、環境庁)に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

④「神奈川県文化財保護条例」(昭和30年、神奈川県条例第13号)

県：県指定天然記念物

⑤「相模原市文化財保護条例」(昭和32年、相模原市条例第23号)

「川崎市文化財保護条例」(昭和34年、川崎市条例第24号)

「横浜市文化財保護条例」(昭和62年、横浜市条例第53号)

「愛川町文化財保護条例」(昭和35年、愛川町条例第1号)

市：市指定天然記念物、町：町指定天然記念物

⑦「環境省第4次レッドリスト 植物II(維管束植物以外)」(平成24年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑧「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」(平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館)

絶滅、野生絶滅、絶滅危惧I類、絶滅危惧IA類、絶滅危惧IB類、絶滅危惧II類、準絶滅危惧、減少種、希少種、要注意種、注目種、情報不足、情報不足A、情報不足B、不明種、絶滅のおそれのある地域個体群

⑩「国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑一関東・中部(山岳)編一」(昭和57年、環境庁)および「神奈川県立自然公園条例」(昭和57年、第19号)

国定：国定公園指定植物、県立：県立公園指定植物

⑭東京都（区部）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

⑮東京都（南多摩）：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～ 2010年版」（平成22年、東京都環境保全局自然保護部）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

注4. 選定基準⑭、⑮については調査範囲に東京都が含まれる調査地域で確認された場合のみ該当種とする。

また、現地で確認された重要な蘚苔類の確認地点を、表 8-4-2-15 に示す。

表 8-4-2-15 現地調査で確認された重要な種の確認位置

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置					
			川崎市			相模原市		
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外		変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲外	
				変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域		変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域
1	ホウオウゴケ	水辺					○	○
2	アオシマヒメシワゴケ	樹林			○		○	○
3	タチチョウチンゴケ	樹林					○	
4	フクラゴケ	樹林						○
5	イトゴケ	樹林			○			○
6	オオミツヤゴケ	樹林				○		○
7	オオサナダゴケ	樹林					○	○
8	ウキゴケ	水辺			○			○

1) 地衣類の状況

文献調査及び現地調査の結果、地衣類に係る重要な種に該当するものはなかった（「資料編 20-1 植物出現種リスト」及び「資料編 20-2 植物文献調査確認種リスト」参照）。

(2) 予測及び評価

1) 予測

ア. 予測項目

文献調査及び現地調査で確認された重要な種及び群落に対する工事の実施又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在による影響について予測した。

イ. 予測手法

既存の知見の引用又は解析により、重要な種及び群落への影響の種類、影響の箇所、影響の程度について予測した。

ウ. 予測地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、工事の実施又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳物）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在に係る重要な種及び群落への影響が生じるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

エ. 予測対象時期

予測対象時期は、工事の実施に係るものは工事期間中、鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在に係るものは鉄道施設の完成時とした。

オ. 予測対象種及び群落

予測対象種及び群落は、文献調査及び現地調査によって対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が高いと考えられる重要な種及び群落とした。

重要な種及び群落の予測対象種を、表 8-4-2-16 に示す。

表 8-4-2-16(1) 予測対象種及び群落

区分		種名及び群落名
重要な種 (高等植物)	現地調査で確認された種 (58種類)	ミズニラ、コシダ、シノブ、ナライシダ、オニイノデ、ジャヤナギ、オノエヤナギ、ヤナギイノコズチ、フクジュソウ、アズマイチゲ、オキナグサ、シギンカラマツ、ルイヨウボタン、イカリソウ、カンアオイ、タマノカンアオイ、トモエソウ、ヤマブキソウ、コイヌガラシ、イワレンゲ、アズマツメクサ、チダケサシ、ムカゴネコノメ、タコノアシ、ナガバノスミレサイシン、ウシタキソウ、シャクジョウソウ、サツキ、ナツハゼ

表 8-4-2-16(2) 予測対象種及び群落

区分	種名及び群落名
<p>現地調査で確認された種 (58種類)</p>	<p>リンドウ、タチキランソウ、ミゾコウジュ、ヤマホオズキ、カワヂシャ、アワコガネギク、タカオヒゴタイ、カタクリ、ヤマユリ、アマドコロ、アマナ、キツネノカミソリ、ニガカシュウ、ミズタカモジグサ、セトガヤ、シヨウブ、カンエンガヤツリ、コマツカサススキ、エビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、クマガイソウ、ベニシュスラン、ヒメノヤガラ、クロムヨウラン、ジガバチソウ、オオバノトンボソウ、カヤラン</p>
<p>重要な種 (高等植物)</p>	<p>文献調査において事業実施区域に生育する可能性が考えられる重要な種のうち、現地調査で確認されなかった種 (270種類)</p> <p>マツバラ、スギラン、イヌカタヒバ、コヒロハハナヤスリ、キジノオシダ、ヒメコケシノブ、コケシノブ、ハマホラシノブ、ミズワラビ、ヒメウラジロ、カラクサシダ、コタニワタリ、チャセンシダ、イヌチャセンシダ、ヤマドリトラノオ、シノブカグマ、イヌイワイタチシダ、タニヘゴ、メニッコウシダ、ムクゲシケシダ、ミドリワラビ、デンジソウ、サンショウモ、オオアカウキクサ、ハリモミ、ヒメコマツ、ネズ、タニガワハンノキ、ウバメガシ、トキホコリ、ミヤマイラクサ、マツグミ、オオツルイタドリ、ナガバノヤノネグサ、ホソバイヌタデ、ヌカボタデ、ノダイオウ、マダイオウ、コギシギシ、タチハコベ、ワダソウ、カワラアカザ、ニッケイ、アズマレイジンソウ、ミチノクフクジュソウ、ミスミソウ、スハマソウ、カザグルマ、バйкаオウレン、オトコゼリ、ヒメミヤマカラマツ、イワカラマツ、ジュンサイ、オニバス、コウホネ、ヒメコウホネ、ヒツジグサ、マツモ、ウスバサイシン、ヤマシャクヤク、ベニバナヤマシャクヤク、コオトギリ、アゼオトギリ、イシモチソウ、モウセンゴケ、コンロンソウ、トサミズキ、ミツバベンケイソウ、ツメレンゲ、マツノハマネンゲサ、メノマンネンゲサ、トリアシショウマ、ウメバチソウ、チョウセンキンミズヒキ、ザイフリボク、ヒロハノカワラサイコ、ヤブザクラ、タヌキマメ、イタチササゲ、レンリソウ、イヌハギ、ヨツバハギ、タチフウロ、ミツバフウロ、ノウルシ、ヨコグラノキ、クロツバラ、ハコネグミ、エゾノタチツボスミレ、マルバケスミレ、サクラスミレ、マキノスミレ、タチスミレ、ゲンジスミレ、ゴキヅル、ミズマツバ、ヒシ、ヒメアカバナ、ウスゲチョウジタデ、フサモ、ハナビゼリ、ホタルサイコ、ミシマサイコ、イブキボウフウ、ムカゴニンジン、ヒカゲミツバ、ベニドウダン、レンゲツツジ、コバノミツバツツジ、オオヤマツツジ、オオツルコウジ、ノジトラノオ、クリンソウ、サクラソウ、イヌセンブリ、ムラサキセンブリ、アサザ、フナバラソウ、スズサイコ、オオバノヨツバムグラ、ヤブムグラ、ホソバノヨツバムグラ、イナモリソウ、マメダオシ、ムラサキ、ルリソウ、ミズタビラコ、カリガネソウ、ツルカコソウ、タニジャコウソウ、ミヤマトウバナ、キセワタ、シロネ、ヒメハッカ、ヒメナミキ、アオホオズキ、ゴマクサ、サワトウガラシ、オオアブノメ、シソクサ、ヒメトラノオ、ゴマノハグサ、サツキヒナノウスツボ、オオヒキヨモギ、イヌノフグリ、クガイソウ、タヌキモ、イヌタヌキモ、カノコソウ、ナベナ、マツムシソウ、フクシマシャジン、マルバノニンジン、バアソブ、キキョウ、ノコギリソウ、ヒメシオン、カワラノギク、サワシロギク、ウラギク、カニコウモリ、オオガンクビソウ、クサヤツデ、フジバカマ</p>

表 8-4-2-16(3) 予測対象種及び群落

区分		種名及び群落名
重要な種 (高等植物)	文献調査において事業実施区域に生育する可能性が考えられる重要な種のうち、現地調査で確認されなかった種 (270種類)	アキノハハコグサ、ヤナギタンポポ、ノニガナ、カワラニガナ、メタカラコウ、ミヤコアザミ、ヒメヒゴタイ、セイタカトウヒレン、キクアザミ、コウリンカ、サワオグルマ、オナモミ、トウゴクヘラオモダカ、アギナシ、ヤナギスズタ、クロモ、トチカガミ、ミズオオバコ、セキショウモ、コウガイモ、ササバモ、ホソバミズヒキモ、イトモ、ホッスモ、サガミトリゲモ、イトトリゲモ、ソクシンラン、ヒメニラ、キジカクシ、キバナノアマナ、クルマバツクバネソウ、オオキツネノカミソリ、ミズアオイ、ノハナショウブ、カキツバタ、アヤメ、ヒナノシヤクジョウ、オカスズメノヒエ、イトイヌノヒゲ、ニッポンイヌノヒゲ、イヌノヒゲ、コウヤザサ、ウンヌケモドキ、ヒメウキガヤ、ハイチゴザサ、ミノボロ、ミチシバ、キダチノネズミガヤ、アイアシ、セイタカヨシ、タチイチゴツナギ、カガミナンプスズ、マキヤマザサ、ミカワザサ、カシダザサ、タキザワザサ、イブキザサ、ケバノカシダザサ、ケスエコザサ、ミヤギザサ、ミクリ、タマミクリ、ナガエミクリ、ヒメミクリ、トダスゲ、マツバスゲ、ジョウロウスゲ、コハリスゲ、ウマスゲ、ヤガミスゲ、タチスゲ、シオクグ、コップモエギスゲ、オニナルコスゲ、マメクグ、シロガヤツリ、オニガヤツリ、ミズハナビ、スジヌマハリイ、コアゼテンツキ、イセウキヤガラ、ユウシュンラン、ナギラン、マヤラン、サガミラン、アツモリソウ、カキラン、タシロラン、アケボノシュスラン、シュスラン、サギソウ、ミズトンボ、スズムシソウ、ヒメフタバラン、アオフタバラン、ヨウラ克蘭、ウチョウラン、ジンバイソウ、ツレサギソウ、ヤマサギソウ、オオヤマサギソウ、トキシソウ、ヤマトキシソウ、ヒトツボクロ、オオハクウンラン、キバナノショウキラン
重要な群落	現地調査で確認された群落 (8群落)	牧馬の夏緑広葉樹林、城山自然環境保全地域、寸沢嵐自然環境保全地域、仙洞寺山自然環境保全地域、茨菰山自然環境保全地域、牧馬自然環境保全地域、石砂山自然環境保全地域、相模川左岸のケヤキ群落
	文献調査において事業実施区域に生育する可能性が考えられる重要な群落のうち、現地調査で確認されなかった群落 (0群落)	
重要な種 (蘚苔類及び地衣類)	現地調査で確認された種 (8種)	ホウオウゴケ、アオシマヒメシワゴケ、タチチョウチンゴケ、フクラゴケ、イトゴケ、オオミヤツヤゴケ、オオサナダゴケ、ウキゴケ
	文献調査において事業実施区域に生育する可能性が考えられる重要な種のうち、現地調査で確認されなかった種 (1種)	イチョウウキゴケ

カ. 影響予測の手順

影響予測は図 8-4-2-3 に示す手順に基づき行った。

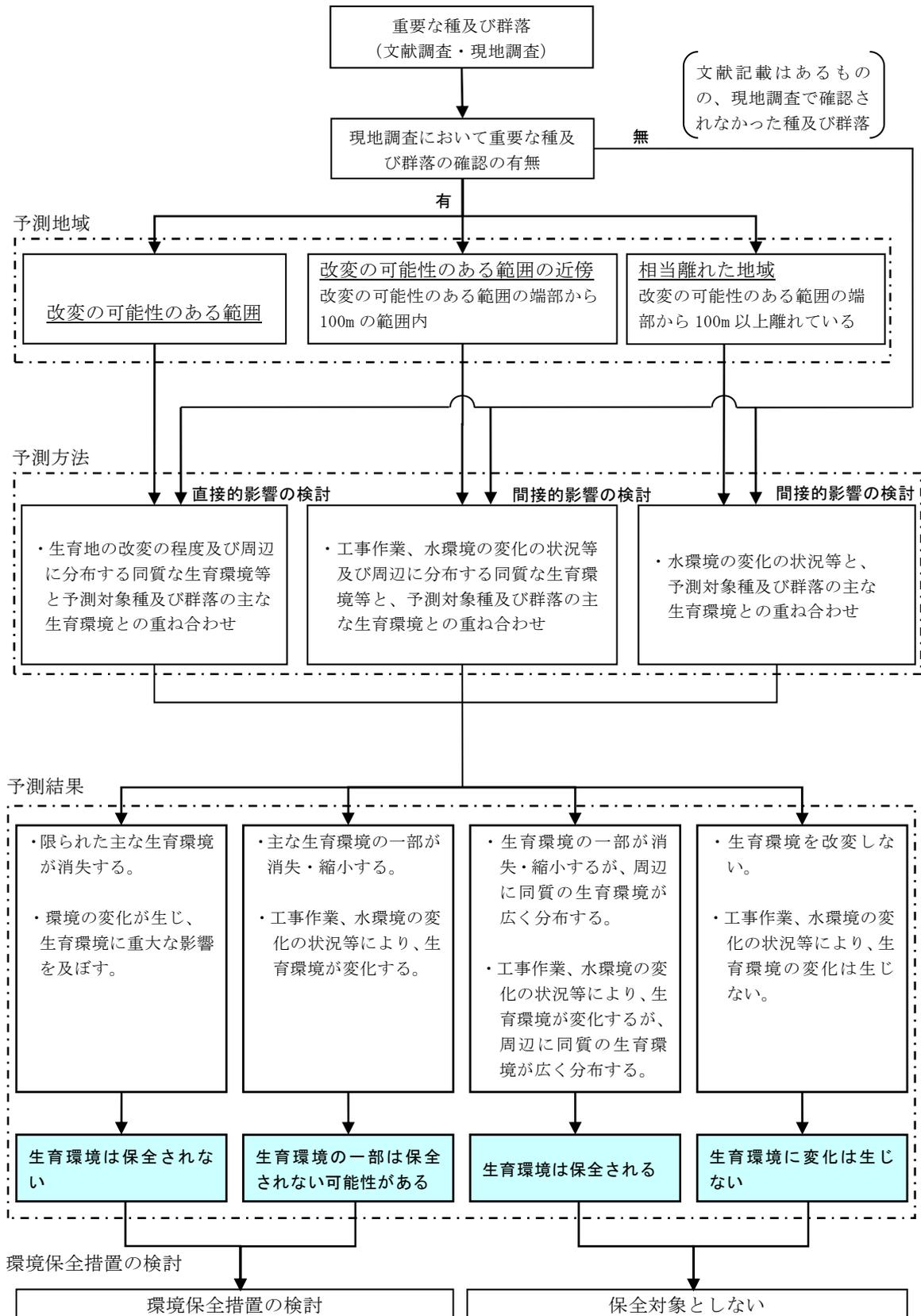


図 8-4-2-3 影響予測の手順

キ. 予測結果

現地調査により確認されている重要な種については、対象事業の実施によりその生育地や生育環境が改変される程度について予測した。なお、文献調査により対象事業実施区域周辺に生育するとされている重要な種のうち、現地調査で確認されなかった種については、対象事業の実施によりその種の生育環境が改変される程度を予測した。

ア) 現地調査で確認された重要な種及び群落の生育環境への影響

現地調査で確認された重要な種及び群落の予測結果を、表 8-4-2-17 及び表 8-4-2-18 に示す。また、個別の種に対する詳細な予測結果を表 8-4-2-19、群落に対する詳細な予測結果を、表 8-4-2-20 に示す。

表 8-4-2-17(1) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			改変の可能性のある範囲	改変の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
1	ミズニラ	水辺	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
2	コシダ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
3	シノブ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
4	ナライシダ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
5	オニイノデ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
6	ジャヤナギ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
7	オノエヤナギ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
8	ヤナギイノコズチ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
9	フクジュソウ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
10	アズマイチダ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
11	オキナグサ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
12	シギンカラマツ	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
13	ルイヨウボタン	樹林	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
14	イカリソウ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-17(2) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			改変の可能性のある範囲	改変の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
15	カンアオイ	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
16	タマノカンアオイ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
17	トモエソウ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
18	ヤマブキソウ	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
19	コイヌガラシ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
20	イワレンゲ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
21	アズマツメクサ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
22	チダケサシ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
23	ムカゴネコノメ	水辺		○	○	生育環境に変化は生じない。
24	タコノアシ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
25	ナガバノスミレサイシン	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
26	ウシタキシソウ	市街地		○		生育環境に変化は生じない。
27	シヤクジョウソウ	樹林		○		生育環境に変化は生じない。
28	サツキ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
29	ナツハゼ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
30	リンドウ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
31	タチキランソウ	草地		○		生育環境に変化は生じない。
32	ミゾコウジュ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
33	ヤマホオズキ	水辺		○		生育環境に変化は生じない。
34	カワヂシャ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
35	アワコガネギク	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
36	タカオヒゴタイ	樹林		○		生育環境に変化は生じない。
37	カタクリ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-17(3) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
38	ヤマユリ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
39	アマドコロ	草地		○	○	生育環境に変化は生じない。
40	アマナ	草地	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
41	キツネノカミソリ	草地			○	生育環境に変化は生じない。
42	ニガカシユウ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
43	ミズタカモジグサ	耕作地			○	生育環境に変化は生じない。
44	セトガヤ	耕作地			○	生育環境に変化は生じない。
45	ショウブ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。
46	カンエンガヤツリ	水辺		○	○	生育環境に変化は生じない。
47	コマツカサススキ	水辺	○			生育環境は保全されない可能性がある。
48	エビネ	樹林	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
49	ギンラン	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
50	キンラン	樹林	○	○	○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
51	ササバギンラン	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
52	クマガイソウ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
53	ベニシュスラン	樹林	○			生育環境は保全されない可能性がある。
54	ヒメノヤガラ	樹林	○			生育環境は保全されない可能性がある。
55	クロムヨウラン	樹林	○			生育環境は保全されない可能性がある。
56	ジガバチソウ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
57	オオバノトンボソウ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
58	カヤラン	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-17(4) 重要な種の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
59	ホウオウゴケ	水辺		○	○	生育環境に変化は生じない。
60	アオシマヒメシワゴケ	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
61	タチチョウチンゴケ	樹林		○		生育環境に変化は生じない。
62	フクラゴケ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
63	イトゴケ	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
64	オオミツヤゴケ	樹林	○		○	生育環境の一部は保全されない可能性がある。
65	オオサナダゴケ	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
66	ウキゴケ	水辺			○	生育環境に変化は生じない。

表 8-4-2-18 重要な群落の予測結果の概要

番号	種名	確認種の生育環境	確認位置			生育環境への影響
			変更の可能性のある範囲	変更の可能性のある範囲の近傍	相当離れた地域	
1	牧馬の夏緑広葉樹林	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
2	自然環境保全地域(城山)	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
3	自然環境保全地域(寸沢嵐)	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
4	自然環境保全地域(仙洞寺山)	樹林	○	○	○	生育環境に変化は生じない。
5	自然環境保全地域(茨菰山)	樹林	○	○	○	生育環境に変化は生じない。
6	自然環境保全地域(牧馬)	樹林		○	○	生育環境に変化は生じない。
7	自然環境保全地域(石砂山)	樹林			○	生育環境に変化は生じない。
8	相模川左岸のケヤキ群落	樹林	○	○	○	生育環境は保全される。

表 8-4-2-19(1) 重要な種の予測結果

ミズニラ (ミズニラ科)		
一般生態	<p>北海道(胆振)、本州、四国(徳島県)、九州(鹿児島県)に分布する。</p> <p>沼、池、川の底やまれに湿地にも生じる夏緑性水草。葉は長さ15～30cm、鮮緑色でやわらかい。水深等の条件によって変異が大きい。池沼の改修と富栄養化の影響を受けて急速に生育場所を失っている。和名は水菰の意。</p>	
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計4地点100個体以上が確認された。</p> <p>川崎市においては、春季、夏季及び秋季調査時に1地点50個体が確認された。その内、相当離れた地域で1地点50個体確認された。</p> <p>相模原市においては、夏季及び秋季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点70個体、相当離れた地域で1地点50個体確認された。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点50個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された3地点100個体以上の内2地点70個体は改変の可能性のある範囲、1地点50個体は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(2) 重要な種の予測結果

コシダ (ウラボシ科)		
一般生態	<p>本州(福島県以南)から琉球にかけての各地に分布する。</p> <p>山麓や山地の日のあたる場所に群生する常緑性の中型シダ。葉柄は長さ20～100cm、径2～3mm、葉は高さ2mをこえることもある。</p>	
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において春季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市においての調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(3) 重要な種の予測結果

シノブ (シノブ科)		
一般生態	北海道(渡島)、本州、四国、九州、琉球に分布する。山地に生育する夏緑性のシダ。根茎は岩上や樹幹上を長くはう。シノブ玉として鑑賞される。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(4) 重要な種の予測結果

ナライシダ (オシダ科)		
一般生態	北海道、本州ではわりに普通に、九州北部でごくまれに分布する。山地林下に生じる夏緑性のシダ。	
確認状況	川崎市の調査範囲において春季調査時に1地点2個体が確認された。相当離れた地域で1地点2個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点2個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(5) 重要な種の予測結果

オニイノデ (オシダ科)		
一般生態	茨城県以西の本州に分布する。山地の林中のそれほど陰湿でない地上にまれに生じる常緑性のシダ。	
確認状況	相模原市において、早春季、春季及び秋季調査時に1地点10個体が確認された。相当離れた地域で1地点10個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(6) 重要な種の予測結果

ジャヤナギ (ヤナギ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州に分布する。 日本固有種。湿地に生える落葉高木。高さ5~10m、直径25~30cmになる。 花は3月、葉の展開と同時に開花する。雄雌別株で、雌株だけが知られている。花序は長さ約1.5cmの楕円形。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において春季、夏季及び秋季調査時に合計4地点10個体が確認された。相当離れた地域で4地点10個体確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された4地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(7) 重要な種の予測結果

オノエヤナギ (ヤナギ科)	
一般生態	<p>北海道、本州、四国に分布する。 丘陵地から亜高山帯の、日当たりのよい谷間や河原、林道わき等に生える落葉高木。まれに乾いた場所にも生える。高さ8~15m、直径10~20cmになる。雄雌別株。 花期は、4月下旬~5月上旬。雄花穂は円柱形で、長さ2~4cm、径10~12mm。雌花穂は狭円柱形で、長さ2~4cm、径8mm程度。</p>
確認状況	<p>川崎市の調査範囲において秋季調査時に1地点6個体が確認された。相当離れた地域で1地点6個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点6個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(8) 重要な種の予測結果

ヤナギイノコズチ (ヒユ科)	
一般生態	<p>本州(関東地方以西)、四国、九州に分布する。山地の林内に生える高さ約90cmの多年草。 花期は8~9月で、緑色の小さな花をややまばらにつける。 和名は葉がヤナギのように細長いことによる。</p>
確認状況	<p>相模原市において、秋季調査時に合計2地点4個体が確認された。相当離れた地域で2地点4個体確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点4個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(9) 重要な種の予測結果

フクジュソウ (キンポウゲ科)		
一般生態	北海道～九州に点々と分布するが、西日本には少ない。温帯の落葉樹林下にはえる多年草。 花期は3～4月。ふつう開花後に茎が伸び、葉が広がる。まわりの樹木の葉や大型の草が茂る5月下旬には実を結んで活動を終える。江戸時代のはじめからすでに観賞用として栽培されており、元日草ともいわれる。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に合計2地点6個体が確認された。相当離れた地域で2地点6個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点6個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(10) 重要な種の予測結果

アズマイチゲ (キンポウゲ科)		
一般生態	北海道～九州に分布する。落葉樹林の林縁や林床、ときに草原にもはえ、石灰岩地を好む多年草。 3～5月に、径2～3cmの白色の花を1個、花茎に頂生する。葉や茎は早春に地上に現れ、初夏に枯れる。	
確認状況	相模原市において、早春季調査時に1地点100個体が確認された。相当離れた地域で1地点100個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点100個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(11) 重要な種の予測結果

オキナグサ (キンポウゲ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。山野の日当たりのよい草地等に見える多年草。 全体に長くて白い毛が多い。花は4～5月、花茎の先に1個下向きにつき、長さ約3cmの鐘形。花の後、花茎は高さ30～40cmほどにのびて、羽毛のかたまりのような実を結ぶ。	
確認状況	相模原市において、早春季及び夏季調査時に合計2地点60個体が確認された。相当離れた地域で2地点60個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点60個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(12) 重要な種の予測結果

シギンカラマツ (キンポウゲ科)		
一般生態	本州（関東南部以西）、四国、九州に分布する。礫地や乾いた林地にはえる多年草。 花期は7～10月。複散房状花序に直径約1cmの白色の花をつける。	
確認状況	相模原市において、春季、夏季及び秋季調査時に合計9地点39個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点8個体、相当離れた地域で8地点31個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された9地点39個体の内1地点8個体は改変の可能性のある範囲の近傍、8地点31個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(13) 重要な種の予測結果

ルイヨウボタン (メギ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。主として温帯の落葉広葉樹林の林床にはえる多年草。 花期は5～7月。茎頂に集散花序をだし、緑黄色で直径約1cmの花をつける。種子は藍色で、一つの花より2個ずつできる。	
確認状況	相模原市において、春季調査時に合計3地点9個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で1地点1個体、相当離れた地域で2地点8個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された3地点9個体の内1地点1個体は改変の可能性のある範囲、2地点8個体は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。（鳥屋地区）
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(14) 重要な種の予測結果

イカリソウ (メギ科)		
一般生態	北海道西南部～九州の温帯～暖帯に分布する。主に太平洋側の山地に生える多年草。 花期は4～6月。花は直径約2cmで、紅紫色～白色。和名は花の形を船の碇に見立てたもの。	
確認状況	川崎市の調査範囲において春季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(15) 重要な種の予測結果

カンアオイ (ウマノスズクサ科)		
一般生態	千葉県、東京都、埼玉県、神奈川県、静岡県に分布する。山地や丘陵の林内に生える常緑性の多年草。 芳香がある。花期は10～2月。花は暗紫色～淡緑褐色で直径約2cm。	
確認状況	相模原市において、早春季、春季及び秋季調査時に5地点45個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点15個体、相当離れた地域で4地点30個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された5地点45個体の内1地点15個体は改変の可能性のある範囲の近傍、4地点30個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(16) 重要な種の予測結果

タマノカンアオイ (ウマノスズクサ科)		
一般生態	本州（関東地方南西部）に分布する。丘陵の林内に生える常緑の多年草。 花期は3～4月。花は直径3cmで暗紫色～暗紫褐色、葉柄の基部につき、土に半ば埋もれて咲く。多摩丘陵で発見されたのでこの名がある。	
確認状況	川崎市において、早春季、春季及び夏季調査時に合計2地点21個体が確認された。相当離れた地域で2地点21個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された2地点21個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(17) 重要な種の予測結果

トモエソウ (オトギリソウ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。山地や丘陵に生える多年草。花期は7～8月。花は大きく、黄色で直径5cm。花弁がねじれているので巴草と呼ばれる。全草無毛。	
確認状況	川崎市の調査範囲において春季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(18) 重要な種の予測結果

ヤマブキソウ (ケシ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。低地の樹林地に群生する多年草。花期は4～6月。花は黄色で直径約4cm。和名は花色にちなむ。	
確認状況	相模原市において、早春季及び春季調査時に合計6地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点100個体以上、相当離れた地域で4地点72個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された6地点100個体以上の内2地点100個体以上は改変の可能性のある範囲の近傍、4地点72個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(19) 重要な種の予測結果

コイヌガラシ (アブラナ科)		
一般生態	本州（関東以西）、九州に分布する。水湿地に多い無毛の1年草又は越年草。花期は4～5月。葉は羽状に深裂して、基部に耳部がある。花は腋生で、短い柄がある。	
確認状況	川崎市において、早春季及び春季調査時に合計3地点22個体が確認された。相当離れた地域で3地点22個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された3地点22個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(20) 重要な種の予測結果

イワレンゲ (ベンケイソウ科)		
一般生態	本州（関東地方以西）、九州に分布する。暖地の岩上や屋根の上等に生える多年草。 花期は9～11月。葉はツメレンゲよりも扁平で、粉白を帯びる。	
確認状況	相模原市において、春季及び夏季調査時に1地点50個体が確認された。相当離れた地域で1地点50個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点50個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(21) 重要な種の予測結果

アズマツメクサ (ベンケイソウ科)		
一般生態	北海道、本州に分布する。湿地に生える小型の多年草。 花期は5～6月。草丈は2～6cmで、花は葉腋に1つずつ着く。	
確認状況	川崎市において、早春季及び春季調査時に1地点100個体が確認された。相当離れた地域で1地点100個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点100個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(22) 重要な種の予測結果

チダケサシ (ユキノシタ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。山野のやや湿った所に生える多年草。 花期は6～8月。葉は2～4回の奇数羽状複葉で、先端は尖らない。花は普通淡紅色。	
確認状況	川崎市の調査範囲において夏季調査時に1地点10個体が確認された。相当離れた地域で1地点10個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることではない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(23) 重要な種の予測結果

ムカゴネコノメ (ユキノシタ科)		
一般生態	本州（関東地方、東海地方）に分布する。沢沿いの林内に生える多年草。 花期は3～4月。走出枝は地上か地中を走る。花には花弁がない。	
確認状況	相模原市において、早春季調査時に合計2地点70個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点50個体、相当離れた地域で1地点20個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点70個体の内1地点50個体は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点20個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(24) 重要な種の予測結果

タコノアシ (ユキノシタ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。湿地や沼、休耕地等に生える多年草。 花期は8～9月。花や実がびっしり並んだ花序を吸盤の多いタコの足に見立てた。	
確認状況	川崎市において、秋季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(25) 重要な種の予測結果

ナガバノスミレサイシン (スミレ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。山地林内に生える多年草。 花期は3～4月。葉は三角状長卵形で長さ3～8cm。花は淡紫色～白色で、直径約2cm。距は太く短い。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に1地点10個体が確認された。相当離れた地域で1地点10個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (26) 重要な種の予測結果

ウシタキソウ (アカバナ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州の山地の林内に生える高さ30～60cmの多年草。 花期は8～9月。葉は有柄で対生し、卵心形で長さ5～12cm、低い鋸歯がある。全株に柔毛が密生する。	
確認状況	相模原市において、春季及び夏季調査時に合計2地点8個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で2地点8個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点8個体は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (27) 重要な種の予測結果

シヤクジョウソウ (イチヤクソウ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州の山地のやや暗いところに生える腐生植物。花期は5～8月。全体が淡黄褐色で有毛。茎は高さ約20cmで、葉の退化した鱗片葉が多数互生する。 茎頂に長い鐘形の花を5～10個下向きにつける。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点1個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (28) 重要な種の予測結果

サツキ (ツツジ科)		
一般生態	本州（神奈川県以西）と九州の川岸の岩上に生える、高さ10～100cmの半常緑低木。 花期は5～7月上旬でほかのツツジ類よりもひと月ほど遅い。枝先に朱赤色の花を1～2個つける。	
確認状況	相模原市において、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計3地点16個体が確認された。相当離れた地域で3地点16個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された3地点16個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(29) 重要な種の予測結果

ナツハゼ (ツツジ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州の山地に生える高さ1～3mの落葉低木。花期は5～6月。枝先から総状花序をだし、赤みを帯びた淡黄緑色の花を多数下向きにつける。若い枝や葉の表面には粗い毛が目立つ。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点5個体が確認された。相当離れた地域で1地点5個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点5個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(30) 重要な種の予測結果

リンドウ (リンドウ科)		
一般生態	本州、四国、九州の山野に生える高さ0.2～1mの多年草。花期は9～11月。茎の先や上部の葉腋に紫色の鐘形の花を開く。葉は対生し、卵状披針形で先がとがり、3脈が目立つ。	
確認状況	相模原市において、春季及び秋季調査時に合計2地点15個体が確認された。相当離れた地域で2地点15個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点15個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(31) 重要な種の予測結果

タチキランソウ (シソ科)		
一般生態	本州（関東西南部～東海地方）の山地に生える多年草。花期は4～6月。花はるり色で上部の葉腋に数個ずつつき、長さ約15mm、上唇は直立し長さ2～3mmあって2裂する。	
確認状況	相模原市において、早春季及び春季調査時に1地点7個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点7個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点7個体は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(32) 重要な種の予測結果

ミゾコウジュ (シソ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州、沖縄のやや湿り気のあるところに生える、高さ30～70cmの2年草。</p> <p>花期は5～6月で、枝先に花穂をだし、淡紫色の小さな唇形花を多数つける。</p> <p>葉は表面の脈がへこみ、細かいしわが目立つ。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計4地点7個体が確認された。</p> <p>川崎市においては、秋季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。</p> <p>相模原市においては、早春季、春季及び秋季調査時に合計3地点6個体が確認された。相当離れた地域で3地点6個体確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された3地点6個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(33) 重要な種の予測結果

ヤマホオズキ (ナス科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州の山地のやや湿った木陰に生える多年草。</p> <p>花期は8～9月。茎は軟弱で枝分かれし、高さ30～50cmになる。</p> <p>葉は卵形又は卵状楕円形で長さ5～12cm、先はとがり、少数の粗い鋸歯がある。</p>
確認状況	<p>相模原市において、秋季調査時に1地点1個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(34) 重要な種の予測結果

カワヂシャ (ゴマノハグサ科)	
一般生態	<p>本州、四国、九州、沖縄の田のあぜや川岸、溝のふち等、湿ったところに生える高さ10～50cmの2年草。</p> <p>花期は5～6月。葉腋から長さ5～15cmの細い総状花序をだし、直径3～4mmの小さな花を多数つける。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計7地点100個体以上が確認された。</p> <p>川崎市においては、早春季及び春季調査時に合計6地点100個体以上が確認された。相当離れた地域で6地点100個体以上確認された。</p> <p>相模原市においては、秋季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された6地点100個体以上は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(35) 重要な種の予測結果

アワコガネギク (キク科)	
一般生態	<p>本州（岩手県～近畿地方）と九州（北部）の山麓のやや乾いた崖等に生える、高さ1～1.5mの多年草。</p> <p>花期は10～11月。頭花は黄色で直径約1.5cm。茎はそう生し、上部には白い軟毛が多い。</p>
確認状況	<p>相模原市において、秋季調査時に1地点2個体が確認された。相当離れた地域で1地点2個体確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点2個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(36) 重要な種の予測結果

タカオヒゴタイ (キク科)		
一般生態	関東地方西南部の草地や明るい疎林内に生える、高さ35～60cmの多年草。 花期は9～10月。根生葉と茎の下部の葉は長柄があり、卵形でふちは大きく湾入する。	
確認状況	相模原市において、秋季調査時に1地点2個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点2個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点2個体は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(37) 重要な種の予測結果

カタクリ (ユリ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。林内に群生する多年草。 花期は3～5月。花茎は高さ20～30cm、茎頂に1個の花を下向きにつける。	
確認状況	相模原市において、早春季調査時に合計2地点13個体が確認された。相当離れた地域で2地点13個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点13個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(38) 重要な種の予測結果

ヤマユリ (ユリ科)		
一般生態	本州（近畿地方以北）に分布する。山地や丘陵に生える多年草。 花期は、7～8月。花は数個から多いものでは20個ほどが横向きに開く。	
確認状況	相模原市において、春季及び秋季調査時に合計2地点31個体が確認された。相当離れた地域で2地点31個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点31個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(39) 重要な種の予測結果

アマドコロ (ユリ科)	
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。山野の草地等に生える多年草。花期は4～5月。葉腋から花柄を下垂し、白色で先端が緑色を帯びた長さ1.5～2cmの筒状の花をつける。
確認状況	川崎市の調査範囲において春季及び夏季調査時に合計3地点70個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点5個体、相当離れた地域で2地点65個体確認された。なお、相模原市においても数多く確認されている。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された3地点70個体の内1地点5個体は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点65個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(40) 重要な種の予測結果

アマナ (ユリ科)	
一般生態	本州（東北地方南部以西）、四国、九州に分布する。日当たりのよい草地、田畑のあぜ、林のふち等に生える多年草。花期は、3～4月。花茎は、高さ15～20cmになり、細くてやわらかい。花はふつう1個つき、日が当たると開く。
確認状況	相模原市において、早春季調査時に合計15地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲1地点100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で7地点100個体以上、相当離れた地域で7地点100個体以上確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された15地点100個体以上の内1地点100個体以上は改変の可能性のある範囲、7地点100個体以上は改変の可能性のある範囲の近傍、7地点100個体以上は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があるとして予測する。（鳥屋地区）
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(41) 重要な種の予測結果

キツネノカミソリ (ヒガンバナ科)		
一般生態	本州、四国、九州に分布する。山地に生える多年草。 花期は、8～9月。葉が枯れたあと、花茎がのびて高さ30～50cmになり、黄赤色の花を散形状に3～5個つける。	
確認状況	川崎市の調査範囲において夏季調査時に1地点10個体が確認された。相当離れた地域で1地点10個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(42) 重要な種の予測結果

ニガカシュウ (ヤマノイモ科)		
一般生態	本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。低地帯の河岸に生育する多年草。 花期は、8～9月。雄花序も雌花序も下垂、花被片は黄緑色で紫色を帯びる。	
確認状況	川崎市の調査範囲において秋季調査時に1地点10個体が確認された。相当離れた地域で1地点10個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点10個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(43) 重要な種の予測結果

ミズタカモジグサ (イネ科)	
一般生態	本州、九州に分布する。水田のまわりに生える多年草。 花期は、5～7月。小穂は長さ17～22mm、無毛、淡緑色で成熟すると紫褐色に染まり、5～7小花からなる。
確認状況	川崎市、相模原市において合計4地点100個体以上が確認された。 川崎市においては、春季調査時に1地点100個体以上が確認された。相当離れた地域で1地点100個体以上確認された。 相模原市においては、春季調査時に合計3地点100個体以上が確認された。相当離れた地域で3地点100個体以上確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点100個体以上は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された3地点100個体以上は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(44) 重要な種の予測結果

セトガヤ (イネ科)	
一般生態	本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。湿地に群生する1年草。 花期は、5～6月。円錐花序は、枝も小穂も密集してすき間がなく、円柱形、長さ3～6cm、幅5～8cmで、スズメノテッポウより、わずかに太く、淡緑色。
確認状況	川崎市の調査範囲において春季調査時に1地点100個体以上が確認された。相当離れた地域で1地点100個体以上確認された。なお、相模原市においても確認されている。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点100個体以上は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(45) 重要な種の予測結果

ショウブ (サトイモ科)		
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。水辺に群生する多年草。花期は5～7月。花茎の先に長さ4～7cm、直径0.6～1cmの肉穂花序を斜め上向きにつける。	
確認状況	川崎市の調査範囲において早春季調査時に1地点30個体が確認された。相当離れた地域で1地点30個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された1地点30個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(46) 重要な種の予測結果

カンエンガヤツリ (カヤツリグサ科)		
一般生態	本州（青森県、埼玉県、千葉県、東京都）に分布する。池や沼、川岸等の水湿地に生える1年草。花期は9～10月。茎の先に葉と同形の苞が4～5個あり、その間から5～10個の枝をだす。枝はさらに散形状に枝分かかれし、先端に長さ2～4cm、幅1～1.5cmの花穂が1～5個つく。	
確認状況	川崎市において、秋季調査時に合計3地点62個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点10個体、相当離れた地域で2地点52個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された3地点62個体の内1地点10個体は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点52個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(47) 重要な種の予測結果

コマツカサスキ (カヤツリグサ科)	
一般生態	本州、四国、九州に分布する。日当たりのよい湿地に生える多年草。花期は8～10月。10～20個の小穂が球状に集まって花穂を作るが、花穂は茎の先には数個、葉腋には1～2個と少ない。
確認状況	相模原市において、秋季調査時に合計4地点100個体以上が確認された。改変の可能性のある範囲で4地点100個体以上確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された4地点100個体以上は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事作業により生育環境が消失する可能性がある。 したがって、確認地点における生育環境は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(48) 重要な種の予測結果

エビネ (ラン科)	
一般生態	北海道(西南部)、本州、四国、沖縄に分布する。山野の落葉樹林内に生える多年草。花期は4～5月。花茎は高さ30～50cmで、多数の花が総状につく。
確認状況	川崎市、相模原市においては、100地点以上100個体以上が確認された。川崎市においては、春季調査時に合計2地点16個体を確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点9個体、相当離れた地域で1地点7個体確認された。 相模原市においては、早春季、春季、夏季及び秋季調査時に合計100地点100個体以上が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で21地点100個体以上、改変の可能性のある範囲の近傍で10地点71個体、相当離れた地域で69地点100個体以上確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された2地点16個体の内1地点9個体は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点7個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された100地点100個体以上の内21地点100個体以上は改変の可能性のある範囲、10地点71個体は改変の可能性のある範囲の近傍、69地点100個体以上は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区、牧馬地区、大羽根地区)
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(49) 重要な種の予測結果

ギンラン (ラン科)	
一般生態	本州、四国、九州に分布する。林内に生える多年草。 花期は5～6月。茎は高さ10～25cmで、茎頂に白色の花を数個つける。
確認状況	川崎市、相模原市において合計3地点7個体が確認された。 川崎市においては、春季調査時に合計2地点6個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点5個体、相当離れた地域で1地点1個体確認された。 相模原市においては、春季調査時に1地点1個体が確認された。相当離れた地域で1地点1個体確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された2地点6個体の内1地点5個体は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(50) 重要な種の予測結果

キンラン (ラン科)	
一般生態	本州、四国、九州に分布する。落葉樹林内に生える多年草。花期は4～6月。茎は高さ30～70cmで、茎頂に直径約1cmの鮮黄色の花を3～12個つける。
確認状況	川崎市、相模原市において合計28地点100個体以上が確認された。川崎市においては、春季及び夏季調査時に合計9地点100個体以上で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点96個体、相当離れた地域で7地点29個体確認された。相模原市においては、春季及び夏季調査時に合計19地点48個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲で2地点5個体、改変の可能性のある範囲の近傍で3地点10個体、相当離れた地域で14地点33個体確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された9地点100個体以上の内2地点96個体は改変の可能性のある範囲の近傍、7地点29個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された19地点48個体の内2地点5個体は改変の可能性のある範囲、3地点10個体は改変の可能性のある範囲の近傍、14地点33個体は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(51) 重要な種の予測結果

ササバギンラン (ラン科)	
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉樹林内に生える多年草。花期は4～6月。茎は高さ30～50cmで、茎頂に白色で長さ約1cmの花を数個つける。
確認状況	川崎市の調査範囲において春季調査時に合計2地点21個体が確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点15個体、相当離れた地域で1地点6個体確認された。なお、相模原市においても確認されている。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された2地点21個体の内1地点15個体は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点6個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 川崎市の調査範囲において本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (52) 重要な種の予測結果

クマガイソウ (ラン科)		
一般生態	北海道(渡島)、本州、四国、九州に分布する。シイ・カシ帯からクリ帯の林内に生える多年草。 花期は4~5月。茎は高さ20~40cmで、唇弁は袋状に大きくふくらみピンクで皺がある。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計2地点3個体が確認された。相当離れた地域で2地点3個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点3個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (53) 重要な種の予測結果

ベニシュスラン (ラン科)		
一般生態	本州(関東地方以西、四国、九州)に分布する。常緑樹林内に生える多年草。 花期は7~8月。茎は横にはい、上部は斜上して高さ4~10cmで、茎頂にふつう2個の花をつける。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点3個体が確認された。改変の可能性のある範囲で1地点3個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点3個体は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事作業により生育環境が消失する可能性がある。 したがって、確認地点における生育環境は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19 (54) 重要な種の予測結果

ヒメノヤガラ (ラン科)		
一般生態	本州(岩手県以南)、四国、九州に分布する。シイ・カシ帯からクリ帯の林内に生える多年草。 花期は7~8月。花茎は高さ5~15cm。菌根植物で、葉緑素はなく、全体がピンクをおびた淡褐色である。	
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点4個体が確認された。改変の可能性のある範囲で1地点4個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点4個体は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事作業により生育環境が消失する可能性がある。 したがって、確認地点における生育環境は保全されない可能性があると予測する。(鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(55) 重要な種の予測結果

クロムヨウラン (ラン科)	
一般生態	本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。山地や丘陵の林内に生える葉緑素をもたない腐生植物。 花期は8～9月。茎は高さ20～40cmで、茎の上部に数個の花をつける。
確認状況	相模原市において、夏季調査時に1地点3個体が確認された。改変の可能性のある範囲で1地点3個体確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点3個体は改変の可能性のある範囲であった。そのため、工事作業により生育環境が消失する可能性がある。 したがって、確認地点における生育環境は保全されない可能性がある（鳥屋地区）
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(56) 重要な種の予測結果

ジガバチソウ (ラン科)	
一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。クリ帯からブナ帯の疎林の中に生える多年草。 花期は5～7月。花茎は高さ8～20cmで、花はふつう暗紫色、ときに淡緑色をおびる。
確認状況	相模原市において春季調査時に、1地点4個体が確認された。相当離れた地域で1地点4個体確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点4個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(57) 重要な種の予測結果

オオバノトンボソウ (ラン科)	
一般生態	本州、四国、九州に分布する。シイ・カシ帯からクリ帯の雑木林に生える多年草。 花期は6～7月。茎は高さ30～60cmで、花は淡黄緑色。
確認状況	相模原市において春季調査時に、1地点7個体が確認された。相当離れた地域で1地点7個体確認された。
予測結果	工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点7個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在 <ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (58) 重要な種の予測結果

カヤラン (ラン科)		
一般生態	本州(岩手県以南)、四国、九州に分布する。基部から多数の根をだし、樹幹に着生する常緑性の多年草。 花期は4~5月。葉腋から細い花茎をだし、数個の黄色花を総状につける。	
確認状況	相模原市において、夏季及び秋季調査時に合計2地点3個体が確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点1個体、相当離れた地域で1地点2個体確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点1個体は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点2個体は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (59) 重要な種の予測結果

ホウオウゴケ (ホウオウゴケ目ホウオウゴケ科)		
一般生態	国内では北海道~琉球、小笠原に分布する。 溪流近くの湿った岩上又は地上に群落を作る。 大形で、茎はふつう長さ2~9cmで18~46対の葉をつける。中肋は葉先近くに届く。腹翼は1細胞層。蒴はわずかに曲がる。	
確認状況	相模原市において、合計4地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で2地点、相当離れた地域で2地点確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された4地点の内2地点は改変の可能性のある範囲の近傍、2地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(60) 重要な種の予測結果

アオシマヒメシワゴケ (ギボウシゴケ目ヒナノハイゴケ科)		
一般生態	国内では本州～九州に分布する。 暖地の海岸近くの樹木に着生する。 全形や葉形等ヒメシワゴケに似るが、葉先が1個の大型細胞からなる透明尖となる。葉身細胞は長さ15～20 μ m、パピラはヒメシワゴケに比べやや中央に集まる傾向がある。	
確認状況	川崎市、相模原市において合計3地点で確認された。 川崎市においては、1地点で確認された。相当離れた地域で1地点確認された。 相模原市においては、合計2地点で確認された。その内、改変の可能性のある範囲の近傍で1地点、相当離れた地域で1地点確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された2地点の内1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(61) 重要な種の予測結果

タチチョウチンゴケ (ホンマゴケ目チョウチンゴケ科)		
一般生態	国内では本州～九州に分布する。 樹幹上、ときに岩上に生えるが稀。 匍匐茎は長さ10cm前後、褐色の仮根を密につけ、不規則に分枝する。 匍匐茎の葉は扁平に並び、円形～広楕円形で長さ5～8mm、先端は円頭。 乾くと巻縮する。雌苞葉は短いへら形で鞘状にならない。生殖器官は長さ1～2cmの直立茎の頂につく。蒴は長卵形で、苞葉からあまり出ない。	
確認状況	相模原市において、1地点で確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された1地点は改変の可能性のある範囲の近傍であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(62) 重要な種の予測結果

フクラゴケ (イヌマゴケ目ヒムロゴケ科)	
一般生態	<p>国内では本州～沖縄に分布する。 樹上又は岩上に生える。 カクレゴケに似るがずっと小形。二次茎は長さ5～7cm、立ち上がって葉を覆瓦状に密につけ、分枝は少ない。 外蒴歯は線状披針でパピラがあり、内蒴歯の歯突起は破片状で外蒴歯に付着する。帽は大きく、蒴全体を覆う。</p>
確認状況	<p>相模原市において、1地点で確認された。相当離れた地域で1地点確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(63) 重要な種の予測結果

イトゴケ (イヌマゴケ目ハイヒモゴケ科)	
一般生態	<p>国内では本州(中部以西)～九州に分布する。 灌木の枝等から垂れ下がる。 キヨスミイトゴケに似て糸状であるが、より細く、葉も小さい。キヨスミイトゴケ同様、二次茎の基部は葉を平らにつけるが、葉身細胞に2～4個の小さなパピラが1列に並ぶことで区別される。蒴枝は長さ2～3mm。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において、合計2地点で確認された。 川崎市においては、1地点確認された。相当離れた地域で1地点確認された。 相模原市においては、1地点で確認された。相当離れた地域で1地点確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種が確認された1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 ・相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19(64) 重要な種の予測結果

オオミツヤゴケ (シトネゴケ目ツヤゴケ科)		
一般生態	国内では本州と九州に分布する。 山地の樹上に生えるが稀。 茎葉は長さ1.5~2mm、卵形~楕円状卵形で深く凹み、先端は急に細く尖り、葉縁は先端を除き全縁、中肋は2叉して短い。 内外蒴歯にはパピラがある。内蒴歯の歯突起はもろくてしばしば痕跡的、ときに外蒴歯に付着する。	
確認状況	相模原市において、合計6地点で確認された。改変の可能性のある範囲で2地点、相当離れた地域で4地点確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された6地点の内2地点は改変の可能性のある範囲、4地点は相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性がある。 したがって、生育環境の一部は保全されない可能性がある」と予測する。(小倉地区、鳥屋地区)
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境は保全されると予測する。

表 8-4-2-19(65) 重要な種の予測結果

オオサナダゴケ (シトネゴケ目サナダゴケ科)		
一般生態	国内では北海道~四国に分布する。 高地に多く、岩上、腐植土上、ときに樹木の基部に生える。 体は黄緑色、葉はふつう強く扁平につき、長さ3~4mm、卵状披針形で非相称、上半部が強く波打つ。 葉先は狭い鋭頭で、仮根や無性芽をつけるか、又はその部の細胞が分化して幅広く、かつ暗い。雌雄異株。	
確認状況	相模原市において、合計2地点で確認された。改変の可能性のある範囲の近傍で1地点、相当離れた地域で1地点確認された。	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された2地点の内1地点は改変の可能性のある範囲の近傍、1地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-19 (66) 重要な種の予測結果

ウキゴケ (ウキゴケ科)	
一般生態	<p>国内では北海道～九州・沖縄に分布する。 低地の湧水や貧栄養の水が流れる用水路等で半ば水に浸ったようにして、あるいは湿った土上等に生育する。 葉状体は幅の狭い葉状で緑色、規則的に二又状に枝別れして長く伸びる。葉状体の断面で2～3層の気室が見られる。腹鱗片は一系列だが、透明で目立たない。仮根はない。</p>
確認状況	<p>川崎市、相模原市において合計6地点で確認された。 川崎市においては、合計2地点で確認された。相当離れた地域で2地点確認された。 相模原市においては、合計4地点で確認された。相当離れた地域で4地点確認された。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された2地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された4地点は相当離れた地域であるため、生育環境の変化は生じない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。 相模原市において、本種が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(1) 重要な群落の予測結果

牧馬の夏緑広葉樹林		
一般生態		合併前の津久井郡相模湖町・藤野町の石老山周辺に分布する。モミ群落やシデ類、クリ、コナラ、ケヤキ等の落葉広葉樹林が報告されており、特定植物選定基準:Eの「郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、社寺林等）」により、特定植物群落に指定されている。
確認状況		牧馬地区において、相当離れた地域から改変の可能性のある範囲の近傍に本群落の一部が含まれる。
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・牧馬地区において、計画路線は本地域外をトンネルで通過する。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本群落が確認された地点では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(2) 重要な群落の予測結果

城山自然環境保全地域		
一般生態		シラカシ、アラカシ、ヤブツバキ、ケヤキ、クヌギ、コナラ等の混交林とスギ、ヒノキの植林
確認状況		小倉地区において、相当離れた地域に自然環境保全地域の一部が含まれる。 調査範囲にかかる地域は、ケヤキ群落とコナラ群落が主な植生であった。
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・小倉地区において、計画路線は本地域を地下トンネルで通過する。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(3) 重要な群落の予測結果

寸沢嵐自然環境保全地域		
一般生態		アラカシ-ウラジロガシ群落とクリ-コナラ群落を主体とし、スギ・ヒノキ人工林が点在する。林床にはカントウカンアオイ、シュンラン、サイハイラン、エビネ、イチヤクソウ等が自生している。
確認状況		青山地区において、相当離れた地域に自然環境保全地域の一部が含まれる。 調査範囲にかかる地域は、道志川左岸の急斜面でケヤキ群落とコナラ群落が主な植生であった。
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・青山地区において、計画路線は本地域外をトンネルで通過する。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(4) 重要な群落の予測結果

仙洞寺山自然環境保全地域		
一般生態	スギ、ヒノキの植林地	
確認状況	<p>青山地区において、相当離れた地域に自然環境保全地域の一部が含まれる。 調査範囲にかかる地域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が主な植生であった。</p> <p>鳥屋地区において、相当離れた地域から改変の可能性のある範囲に自然環境保全地域の一部が含まれる。 調査範囲にかかる地域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が主な植生であり、コナラ群落も点在していた。 調査範囲内の同様の植生で群落調査を実施した結果、高木層ではスギ、亜高木層ではミズキ、低木層ではアズマネザサ、草本層ではケチヂミザサが優占していた。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 青山地区において、計画路線は本地域外をトンネルで通過する。 鳥屋地区において、車両基地の位置は自然環境保全地域に入らないよう計画する。また、計画路線は本地域を地下トンネルで通過する。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(5) 重要な群落の予測結果

茨菰山自然環境保全地域		
一般生態	スギ、ヒノキの植林地	
確認状況	<p>鳥屋地区において、相当離れた地域から改変の可能性のある範囲に自然環境保全地域の一部が含まれる。 調査範囲にかかる地域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が主な植生であり、コナラ群落やススキ群落も点在していた。この地域の樹林では、ニホンジカによる食害が顕著であり、低木や草本類が極端に少なかった。 調査範囲内の同様の植生で群落調査を実施した結果、高木層ではスギ、亜高木層ではミズキ、低木層ではアズマネザサ、草本層ではケチヂミザサが優占していた。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋地区において、車両基地の位置は自然環境保全地域に入らないよう計画する。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> 本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(6) 重要な群落の予測結果

牧馬自然環境保全地域		
一般生態	クヌギ、コナラ等の二次林を中心としてスギ、ヒノキの植林地が点在する。また道志川沿いの斜面にウラジロガシ、ヤマモミジ、ケヤキ等が自生している。	
確認状況	<p>牧馬地区において、相当離れた地域から改変の可能性のある範囲の近傍に本自然環境保全地域の一部が含まれる。</p> <p>調査範囲にかかる地域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林が主な植生であり、コナラ群落やケヤキ群落も存在していた。調査範囲内の同様の植生（スギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落及びケヤキ群落）で群落調査を実施した結果、スギ・ヒノキ・サワラ植林は高木層ではヒノキ、低木層ではマルバウツギ、草本層ではテイカカズラが優先していた。コナラ群落は高木層ではコナラ、亜高木層ではウラゲエンコウカエデ、低木層ではムラサキシキブ、草本層ではコウヤボウキが、ケヤキ群落は高木層ではケヤキ、亜高木層ではアラカシ、低木層ではアオキ、草本層ではアケビが優占していた。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧馬地区において、計画路線は本地域を地下トンネルで通過する。 ・ したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・ したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(7) 重要な群落の予測結果

石砂山自然環境保全地域		
一般生態	クリ - コナラ群集とスギ - ヒノキ植林を中心に、アラカシ - ウラジロガシ群落が点在する。この地域内にはギフチョウが生育し、林床にはカントウカンアオイ、シュンラン、ヒトリシズカ等が自生している。	
確認状況	<p>牧馬地区において、相当離れた地域に自然環境保全地域の一部が含まれる。</p> <p>調査範囲にかかる地域は、スギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落、ケヤキ群落が主な植生であった。スギ・ヒノキ・サワラ植林において群落調査を実施した結果、高木層ではヒノキ、低木層ではマルバウツギ、草本層ではテイカカズラが優占していた。</p>	
予測結果	工事の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牧馬地区において、計画路線は本地域を地下トンネルで通過する。 ・ したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。
	土地又は工作物の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・ したがって、生育環境に変化は生じないと予測する。

表 8-4-2-20(8) 重要な群落の予測結果

相模川左岸のケヤキ群落	
一般生態	<p>国内では本州、四国、九州の温暖な地域の肥沃地や溪畔によくみられる。</p> <p>「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年、神奈川県立生命の星・地球博物館）によると、「丘陵地の植分は開発により失われつつあり、残存植分は重要である。特に近年では、これまで開発を免れてきた河岸段丘崖など斜面林も、土木技術の発達により宅地化され失われるケースが多い」とされている。</p>
確認状況	<p>相模川左岸の段丘斜面に分布する。ケヤキが優占した落葉広葉樹の二次林である。スギやヒノキ、マダケなどが混じることから二次林と判断した。</p> <p>小倉橋下流ではモウソウダケやマダケが侵入し、構成種が単調な部分が多くみられた。また、局所的にハリエンジュがやや密に生えており、林床にごみなども目立つ、低木類が除伐されているなど、人為的な影響を受けている箇所も見られた。</p>
予測結果	<p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本群落の一部は、改変の可能性のある範囲に分布しており、工事作業により生育環境の一部が消失・縮小する可能性があるが、周辺に同質の生育環境が広く分布する。 ・なお、施工にあたっては斜面の伐採面積は最小限とし、必要に応じて法面安定対策工を実施し、斜面の崩落を防止する。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。
	<p>土地又は工作物の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本群落が確認された地域では、「工事の実施」における改変以外に工事後に新たな改変はなく、「土地又は工作物の存在」による新たな生育環境の変化も生じないため、「土地又は工作物の存在」による影響は「工事の実施」に記載した影響を上回ることはない。 ・したがって、生育環境は保全されると予測する。

イ) 文献でのみ記載がある重要な種及び群落の生育環境への影響

文献調査において対象事業実施区域及びその周囲に生育する可能性が考えられる重要な種及び群落のうち、現地調査で確認されなかった重要な種は、高等植物 270 種類、群落は 0 群落、蘚苔類及び地衣類 1 種であった。

工事の実施又は鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在により、重要な種及び群落の生育環境の一部が消失、縮小する可能性が考えられるが、周辺に同質の生育環境が広く分布すること、工事に伴う排水は必要に応じて沈砂池、濁水処理装置を配置し処理することから生育環境の消失、縮小は一部にとどまる。また、対象事業実施区域の多くの植物は雨水起源の土壌水で生育していると考えられるため、地下水位の変化による生育環境への影響は及ばない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、重要な種及び群落の生育環境は保全されると予測する。

2) 環境保全措置の検討

ア. 環境保全措置の検討の状況

本事業では、計画の立案の段階において、植物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生育環境の全体又は一部を回避」及び「工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在による植物に係る環境影響をできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

環境保全措置の検討の状況を、表 8-4-2-21 に示す。

表 8-4-2-21 環境保全措置の検討の状況

環境保全措置	保全対象種	実施の適否	適否の理由
重要な種の生育環境の全体又は一部を回避	保全対象種全般	適	重要な種の生育環境の全体又は一部を回避することで、影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること	保全対象種全般	適	重要な種の生育環境の改変を出来る限り小さくすることで、重要な種への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。
重要な種の生育環境の創出	ルイヨウボタン、アマナ、コマツカサススキ、エビネ、ミズニラ等	適	重要な種の生育環境を創出することで、重要な種の生育環境を代償できることから、環境保全措置として採用する。
林縁保護植栽等による自然環境の確保	保全対象種全般	適	改変された区域の一部に林縁保護植栽等を図ることで、自然環境を確保できることから、環境保全措置として採用する。
重要な種の移植	ルイヨウボタン、アマナ、コマツカサススキ、エビネ、キンラン、ベニシュスラン、ヒメノヤガラ、クロムヨウラン、ミズニラ、オオミツヤゴケ	適	重要な種を移植することで、種の消失による影響を代償できることから、環境保全措置として採用する。
汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置	コマツカサススキ、ミズニラ等	適	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置により汚濁水の発生が抑えられ、また排水の水温を下げることで、水辺の植物等の生育環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。
工事従事者への講習・指導	保全対象種全般	適	工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による重要な種への影響を回避できることから、環境保全措置として採用する。

イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（都市トンネル、山岳トンネル、非常口（都市部、山岳部）、地表式又は掘割式、高架橋、橋梁、車両基地、変電施設）の存在による植物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生育環境の全体または一部を回避」、「工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること」、「重要な種の生育環境の創出」、「林縁保護植栽等による自然環境の確保」、「重要な種の移植」、「汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置」及び「工事従事者への講習・指導」を実施する。

環境保全措置の内容を、表 8-4-2-22 に示す。

表 8-4-2-22(1) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	重要な種の生育環境の全体又は一部を回避
	保全対象種	保全対象種全般
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	重要な種の生育環境の全体又は一部を回避することで、影響を回避、低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(2) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	工事に伴う改変区域をできる限り小さくすること
	保全対象種	保全対象種全般
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	重要な種の生育環境の改変を出来る限り小さくすることで、重要な種への影響を回避、低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(3) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
保全対象種	ルイヨウボタン、アマナ、コマツカサススキ、エビネ、ミズニラ等	
実施内容	種類・方法	重要な種の生育環境の創出
	位置・範囲	事業区域及び周囲
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	車両基地計画地に生育する重要な種の生育環境は、やむを得ず縮小、消失することとなるため、代償措置として、類似した環境（植生、光及び水分等の条件等）を創出することで生育環境への影響を代償することができる。なお、生育環境の創出は、事例等から知見が得られており、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(4) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	林縁保護植栽等による自然環境の確保
	保全対象種	保全対象種全般
	時期・期間	鉄道施設の完成後
環境保全措置の効果	改変された区域の一部を林縁保護植栽等により修復を図ることで、自然環境を確保できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(5) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	重要な種の移植
	保全対象種	ルイヨウボタン、アマナ、コマツカサススキ、エビネ、キンラン、ベニシユスラン、ヒメノヤガラ、クロムヨウラン、ミズニラ、オオミツヤゴケ
	時期・期間	工事前
環境保全措置の効果	車両基地計画地に生育する重要な種の生育環境は、やむを得ず縮小、消失することとなるため、代償措置として、類似した環境（植生、光及び水分等の条件等）を持つ場所等へ移植を行うことで、重要な種の生育環境への影響を代償することができる。なお、重要な種の移植は、事例等から知見が得られており、専門家の助言を得ながら行うことで、効果が期待できる。	
効果の不確実性	あり	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(6) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置
	保全対象種	ミズニラ、コマツカサススキ等
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	汚濁処理設備及び仮設沈砂池の設置により汚濁水の発生が抑えられ、また排水の水温を下げることで、水辺の植物等の生育環境への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

表 8-4-2-22(7) 環境保全措置の内容

実施主体	東海旅客鉄道株式会社	
実施内容	種類・方法	工事従事者への講習・指導
	保全対象種	保全対象種全般
	時期・期間	工事中
環境保全措置の効果	工事区域外への不必要な立ち入り等を制限することで、踏みつけ等による重要な種への影響を低減できる。	
効果の不確実性	なし	
他の環境への影響	なし	

ウ. 環境保全措置、代償措置の効果及び当該措置を講じた後の環境の変化の状況

環境保全措置の効果は表 8-4-2-22 に示すとおりである。環境保全措置を実施することで、植物への影響は、回避、低減及び代償される。

3) 事後調査

ア. 事後調査を行うこととした理由

本事業の実施による植物への影響については、環境保全措置を実施することにより影響を回避、低減及び代償できるものと予測する。

しかし、環境保全措置の効果に不確実性があることから、環境影響評価法に基づく事後調査を実施する。

イ. 事後調査の項目及び手法

実施する事後調査の内容を、表 8-4-2-23 に示す。

表 8-4-2-23 事後調査の概要

調査項目	調査内容	実施主体
創出した生育環境の状況	○調査時期・期間 各保全対象種の生活史及び生育特性等に応じて設定 ○調査地域・地点 生育環境の創出地 ○調査方法 現地調査（任意観察）による確認	東海旅客鉄道株式会社
移植した植物の生育状況	○調査時期・期間 各保全対象種の生活史及び生育特性等に応じて設定 ○調査地域・地点 移植を講じた植物の移植先生育地 ○調査方法 現地調査（任意観察）による確認	東海旅客鉄道株式会社

ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、その原因の解明に努めるとともに改善を図るものとする。

エ. 事後調査の結果の公表方法

事後調査の結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関と連携しつつ適切に実施するものとする。

4) 評価

ア. 評価の手法

ア) 回避又は低減に係る評価

調査・予測結果、環境保全措置を行った場合はその結果について、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか、見解を明らかにすることにより行った。

イ. 評価結果

ア) 回避又は低減に係る評価

計画路線は、計画段階において、大部分をトンネル構造にする等して、改変面積を極力小さくする計画とし、植物への環境影響の回避、低減を図っている。

一部の種については、生育環境が保全されない又は一部は保全されない可能性があるとして予測されたが、工事従事者への指導等の環境保全措置を確実に実施することで、植物への環境影響の回避、低減に努める。

なお、移植した植物の生育状況については、環境保全措置の効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。予測し得ない影響が生じた場合は、専門家等の助言等を踏まえて、別途対策を検討する。

このことから、環境への影響は回避又は低減されていると評価する。